

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和5年7月18日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	(一社) 平戸観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 長崎県平戸市	
所在地	長崎県平戸市崎方町 776-6	
設立時期	昭和30年1月1日 平戸観光協会 発足 平成8年2月22日 社団法人 平戸観光協会 設立 平成25年4月1日 一般社団法人に移行	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	11人【常勤7人(正職員5人・出向等2人)、非常勤4人】	
代表者(トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 藤澤 美好 (出身組織名) (一社)平戸観光協会	平戸観光協会の会長として、行政、事業者、地域との様々なパイプ役を担っている。在任期間中、台湾や中国大陸との国際交流に尽力するとともに、世界遺産登録を推進する「平戸市民の会」の副会長として登録推進に貢献した。また平戸市地域ブランド推進協議会会長や平戸市総合計画審議会委員など様々な取組で、観光振興に成果を挙げている
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者(CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 村上 健之「出向」 (出身組織名) 日本航空(株)	マーケティング部門の責任者である。日本航空株式会社より出向。日本航空では、海外営業等を担当。平戸観光協会においては、商品開発及び造成、マーケティング業務を担っている。
財務責任者(CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 藤田 法恵「出向」 (出身組織名) 平戸市役所	平戸市観光課長を歴任した。現在、事務局長として事務局を統括しつつ財務の責任者でもある。また平戸版DMOの推進、海外誘致、国内誘致、MICE、教育旅行、PR事業や旅行商品造成、販売に関する業務を統括している。

商品販売・収益事業の責任者（専門人材）	(氏名) 山崎 翔太 「専従」 (出身組織名) (一社)平戸観光協会	事業部門の責任者で、受入環境整備WGの担当者でもある。旅行事業・売店事業・指定管理業務など、特に自社旅行商品の販売や、物産品の販売など、収益事業の責任者としても事業に取り組んでいる。
プロモーションの責任者（専門人材）	(氏名) 山口 朋美「専従」 (出身組織名) (一社)平戸観光協会	誘致・プロモーション部門の責任者で、プログラム商品造成WGの担当。広報PRはもちろんのこと、特に地域の産品を活用した商品開発やプロモーションで、収益につながる商品造成とブランディング化を担当している。商品造成ワーキング会議においては、全体管理やワークショップまで実務の中心的役割を担っている。
国内・海外セールス部門の担当者（専門人材）	(氏名) 山崎 翔太「専従」 (出身組織名) (一社)平戸観光協会	誘致・プロモーション部門の実務担当者で、インバウンドWGの担当者。国内外の観光客誘致事業を担当している。主に国内外の旅行会社セールスに取り組んでいる。
総務・管理部門の担当者（専門人材）	(氏名) 長尾 美樹 「専従」 (出身組織名) (一社)平戸観光協会 係長	総務部門の実務担当者。理事会・各部会を担当。平戸観光協会において、長年、財務会計状況の管理・分析について担当し経験を豊富に有している。また、会員の管理や協会内の総務全般の仕事も担当している。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	【平戸市】 ◆文化観光商工部 観光課 データ収集・分析調査、戦略策定、観光施設活用、マーケティング、観光プロモーション ◆文化観光商工部 文化交流課 文化遺産班 世界遺産の保存・整備・活用、文化施設・文化財の活用 ◆文化観光商工部 文化交流課 交流推進班 文化の振興、交流の産業化、交流都市との連携 ◆文化観光商工部 商工物産課 物産振興班 平戸ブランド（魚貝類・野菜他）等販売促進・流通 ◆文化観光商工部 商工物産課 商工新産業班 雇用対策、企業誘致 ◆農林水産部 農林振興課・水産課 グリーンツーリズム・ブルーツーリズム促進 ◆財務部 企画財政課 企画統計班 各統計データの利活用 ◆財務部 企画財政課 ふるさと納税推進班 ふるさと納税の推進	

	<p>◆総務部 地域協働課 定住推進班 移住・定住促進</p> <p>◆市民生活部 健康ほけん課 健康づくり班 ヘルスツーリズム促進</p> <p>◆建設部 都市計画課 ふるさと景観班 景観保全</p> <p>◆生月支所・田平支所・大島支所 各地域振興課 市民協働の連携、各施設・交通インフラの利活用</p> <p>◆教育委員会 学校教育課・生涯学習課 市内小中学校、各施設との連携</p> <p>【長崎県】</p> <p>◆県北振興局 商工観光課 長崎県北地域の観光・物産に関する一連の業務</p> <p>◆文化観光国際部 観光・物産に関する一連の業務</p>
連携する事業者名及び役割	<p>※主に、以下当協会会員組織に紐づく各事業者と連携</p> <p>【受入環境整備】</p> <p>◆平戸商工会議所 ◆平戸市商工会 ◆平戸旅館組合 ◆平戸料飲業組合 ◆(公財)平戸市振興公社 ◆平戸市文化協会 ◆(公財)松浦史料博物館 ◆NPO 法人平戸観光ウェルカムガイド ◆平戸市鄭成功記念館運営委員会 ◆紙漉の里振興協議会 ◆木引田町商店街振興組合 ◆みやんちよ商店街振興組合 ◆九州電力(株) 平戸営業所 ◆(株)九電工 平戸営業所 ◆(株)十八親和銀行平戸支店・平戸中央支店 ◆日本郵便(株)平戸郵便局</p> <p>【城泊を活用した城泊JV連携事業】</p> <p>◆平戸城「城泊」JV (Kessha(株)、(株)アトリエ・天工人、日本航空(株)) ◆(株)狼煙</p> <p>【特産品の流通・販促、体験プログラムの開発】</p> <p>◆平戸市物産振興協会 ◆長崎県菓子工業組合 平戸支部 ◆平戸瀬戸市場協同組合 ◆農事組合法人ひらど新鮮市場 ◆ながさき西海農業協同組合 ◆平戸市森林組合 ◆平戸市漁業協同組合 ◆中野漁業協同組合 ◆志々伎漁業協同組合 ◆館浦漁業協同組合 ◆生月漁業協同組合 ◆九十九島漁協 田平支所 ◆中平戸体験振興協議会 ◆志々伎体験型振興会 ◆田平体験振興会 ◆生月島体験観光協議会 ◆大島村体験型観光協議会 ◆平戸カヤックス ◆(株)JTB 福岡支店 ◆長崎空港ビルディング(株) 他</p> <p>【アクセス改善・二次交通】</p> <p>◆松浦鉄道(株) ◆西肥自動車(株) ◆大川陸運(株) ◆生月自動車(有) ◆シルバータクシー(株) ◆マンボウタクシー ◆中部タクシー(有) ◆生月自動車(有) ◆ハッピーレンタカー ◆竹山運輸(有) ◆津吉商船(株) 他</p> <p>【情報発信】</p> <p>◆(株)テレビ長崎 ◆長崎放送(株) ◆長崎文化放送(株) ◆NHK 長崎放送局 ◆西日本新聞社 ◆長崎新聞社 ◆各雑誌社 ◆各ラジオ局 他</p>

	<p>【マーケティング調査等】</p> <p>◆長崎国際大学 国際観光研究所 ◆長崎県立大学 地域創造学部</p> <p>◆日本航空(株) ◆(株)狼煙</p> <p>【広域連携】</p> <p>◆(一社)九州観光推進機構 ◆(一社)長崎県観光連盟</p> <p>◆(公財)佐世保観光コンベンション協会</p> <p>◆(一社)まつうら観光物産協会 他</p>				
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>【該当する登録要件】①、② (概要)</p> <p>①当協会には多様な業種の関係者が参画しており、会員の代表者によって構成される理事会と、DMOの最高意思決定機関としての総会により、組織全体の合意形成を図っている。</p> <p>②宿泊事業者・観光事業者・交通事業者・農林水産業者・NPO・町会組織代表や市民と、行政・当協会事務局職員で構成する、ワーキンググループは、DMOの具体的な活動を提案し、実務の調整も行う協議の場として位置付けている。</p> <p>【受入環境整備WG】・【インバウンドWG】・【プログラム商品造成WG】・【企画マーケティングWG】の4つのワーキンググループを設置し合意形成を図っている。</p> <p>③平戸市・平戸観光協会・平戸商工会議所・平戸商工会や各団体の長が参画する「平戸市観光戦略協議会」を設置しており、DMOの取組みに関する報告を行い、事業推進のための連携・承認機関としての役割を有している。</p> <p>④当協会理事会と事務局との調整を図るため、「総務部会」「事業部会」を設置している。各部会では、理事会への提案・協議をスムーズに行えるよう活動を行っている。また地元大学と連携した調査事業を実施し、その研究機関がマーケティングアドバイザーとして分析結果を事業に活かす役割を負っている。さらにDMOのマネジメント責任者を中心に、事業者の活動や地域間連携のため、分析データに基づいた効率的な事業推進ための企画提案も行っている。</p>				
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>当協会の管理施設等を活用した、市民も参加できるイベントの開催や、市民が平戸の魅力を再発見する事業の実施・サポート、また地域住民によって構成される「まちづくり協議会」等の会合にも今後参加し、観光地域づくりについての意見交換・合意形成を行っている。また、地域住民への啓発を目的としたシンポジウムや講演会も開催している。</p>				
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>【活動の概要】</p> <table border="1" data-bbox="432 1644 1409 2027"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 1644 619 1693">事業</th> <th data-bbox="619 1644 1409 1693">実施概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 1693 619 2027"> <p>情報発信・プロモーション</p> </td> <td data-bbox="619 1693 1409 2027"> <p>・情報発信事業(メディア展開)</p> <p>全国展開の旅行雑誌「るるぶ」への掲載や、業界専門紙「旅行新聞」での当地特集記事など紙媒体での出稿に限らず、メディアミックスによる広報活動を実施した。またDMOの第1ターゲット層の居住地である福岡都市圏でのプロモーションとして、西鉄天神駅、西鉄電車・バス内での広告掲出や、最近では全国放送のテレビ番組や雑誌の取材も多く、また自動車会社のCM撮影や映画のロケハン等の対応にも丁寧に協力することで、平戸観光の広報に努めた。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	<p>情報発信・プロモーション</p>	<p>・情報発信事業(メディア展開)</p> <p>全国展開の旅行雑誌「るるぶ」への掲載や、業界専門紙「旅行新聞」での当地特集記事など紙媒体での出稿に限らず、メディアミックスによる広報活動を実施した。またDMOの第1ターゲット層の居住地である福岡都市圏でのプロモーションとして、西鉄天神駅、西鉄電車・バス内での広告掲出や、最近では全国放送のテレビ番組や雑誌の取材も多く、また自動車会社のCM撮影や映画のロケハン等の対応にも丁寧に協力することで、平戸観光の広報に努めた。</p>
事業	実施概要				
<p>情報発信・プロモーション</p>	<p>・情報発信事業(メディア展開)</p> <p>全国展開の旅行雑誌「るるぶ」への掲載や、業界専門紙「旅行新聞」での当地特集記事など紙媒体での出稿に限らず、メディアミックスによる広報活動を実施した。またDMOの第1ターゲット層の居住地である福岡都市圏でのプロモーションとして、西鉄天神駅、西鉄電車・バス内での広告掲出や、最近では全国放送のテレビ番組や雑誌の取材も多く、また自動車会社のCM撮影や映画のロケハン等の対応にも丁寧に協力することで、平戸観光の広報に努めた。</p>				

		<p>・ 情報発信事業（インターネット展開）</p> <p>2018 年度に当協会ホームページ「達人 Navi 平戸」のリニューアルに着手し、12 月末に完成・公開した。また 2018 年度は韓国語版、2019 年度は中国語（繁体・簡体版）ホームページのリニューアルにも着手し、2020 年度には英語版ホームページのリニューアルを行った。2018 年度は公開後の 1～3 月の前年対比で、HP 閲覧数・PV 数・滞在時間の大幅改善となったが、一部目標数値には及ばなかった。しかし 2019 年度には HP 閲覧数が、前年比 18.9%増、PV 数が 21.8%増、韓国語 HP の閲覧数は 31,730 人に達している。</p> <p>また、オンライントラベルエージェント（OTA）の活用では、楽天トラベルと宿泊施設への訪問を実施し、5 施設が新規登録を行った。また、OTA 活用施設を対象に OTA 講習会を 2 月に 1 回実施し、6 施設が受講している。2020 年度～2022 年度は、SNS 等の情報発信を強化し、タイムリーな情報発信に努めている。</p>
	<p>受入環境の整備</p>	<p>・ 国際交流事業</p> <p>当市との交流の歴史が長い台湾台南市や、中国廈門市、姉妹都市の南安市等と連携して、鄭成功の功績を称えた事業を展開した。長年実施している台南市鄭成功文化節に合わせた台湾親善訪問団の実施や、市内で行われる「鄭成功生誕祭・前夜祭」を開催し、関係者との国際交流を深めることで海外からの参加客のさらなる獲得を推進した。</p> <p>■ 平戸市台湾親善訪問団の実施（4 月 27 日～30 日）</p> <p>■ 鄭成功生誕祭の実施（前夜祭 7 月 13 日・生誕祭 7 月 14 日）</p> <p>・ 国際観光誘客事業</p> <p>2018 年度～2019 年度は、当地の重点誘客地域である東アジア・東南アジアからの訪日観光客誘致を図るため、日本政府観光局（JNTO）、九州観光推進機構、長崎県観光連盟と連携し、観光誘致セミナー商談会への参加や、旅行会社向けの観光情報説明会を活用しての誘致セールス活動を展開した。第 1 ターゲット層である東アジア（韓国・中国・台湾・香港）や、第 2 ターゲット層の東南アジア（タイ・シンガポール・フィリピン・インドネシア・ベトナム）で主要旅行会社へのセールス活動を行った。また MICE の取組として、韓国 CBS・TV 局と連携した聖地巡りツアーや、中国から音楽家のサマーキャンプなども誘致して、新たな取り組みも行うことができた。長崎県観光連盟との連携によるフィリピンからのカトリック関係者の視察受入れに加え、レンタカーを使った FIT 向けの誘客事業なども実施した。また情報発信においては、当協会外国語版の専用ホームページ（韓国語版・中国語（繁体・簡体版））を拡充し、韓国・中国・香港・台湾からの観光客向け観光素材の周知のための情報発信を図った。さらに、中国や欧米から佐世保港へ寄港する大型クルーズ船から当地への周辺観光</p>

		<p>へとつなげるため、船社セールスや平戸市の観光コンテンツの認知度向上のためのPRプロモーションを展開し、旅行形態、ニーズ、条件を分析・考慮した受入環境整備事業も実施した。</p> <p>2020年度は世界的にコロナウィルス感染者の拡大により、海外セールスを取りやめている。またJNTO主催のインバウンド商談会や説明会も中止され、インバウンド誘致活動に影響を及ぼしているが、アフターコロナを見据えて、「Uni-Voice コード」による多言語案内版の構築を行った。このシステムは、Wi-Fi 通信圏外のオフラインで利用可能な多言語化という点が特色で、文章の読み上げ機能が有り、広い意味でのバリアフリー対応が可能である点で、インバウンド対応だけでなくユニバーサルツーリズムの観点からも今後の活用が期待できる。また動画コンテンツやプログラムの充実を図り、更なる情報発信と誘致活動により、外国人宿泊者の増加を狙った活動を継続していく。</p> <p>2021年度は、日本政府観光局（JNTO）による個別コンサルティング、九州観光推進機構等と連携した中国プロガー招聘、4カ国語の動画制作等を実施。</p> <p>2022年度は、佐賀県・長崎県連携事業による中国向け共同動画PR、欧米豪向けの動画PR、韓国商談会を実施。</p> <p>・国内観光誘致事業（修学旅行誘致含む）</p> <p>2018年度～2019年度にかけ、大手旅行会社の商品造成を促進するため、パンフレット協賛・販売奨励金による施策を実施した。特に2018年夏に開催された「平戸城再築城300周年イベント」及び「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」への登録に合わせた誘客のために、市内や佐世保市の宿泊施設や観光施設と連携を図り、東京首都圏、名古屋、大阪、福岡を中心に、送客力のある主要旅行会社に対し、新たな旅行商品の造成・販売による当地への送客を促すためのセールス活動を実施した。また、商品造成のための素材集を年2回発行し、併せて当協会が企画した着地型旅行商品も紹介することで、平戸への宿泊を伴う旅行商品の造成と送客促進を図った。また九州観光推進機構や長崎県観光連盟、観光施設や宿泊施設と連携し、主要都市で開催される観光素材説明会や商談会への参加やセールス活動をとおして、観光素材をPRすることで当地への観光客誘致と滞在時間の拡大を図った。</p> <p>■世界遺産登録に関連した春日集落見学コース設定の再設定と旅行会社への提案</p> <p>■富裕層向けに松浦史料博物館と連携した「平戸の秘宝と美食に酔いしれる旅」の着地型商品の利用促進と旅行会社による商品化</p> <p>■街中への回遊を促し更なる誘客を図る為の地域クーポン「平戸さむらいチケット」等を着地型旅行の商材として活用するため、観光事業者、九州各地の道の駅へのセールスを展開</p>
--	--	---

		<p>2020～2020 年度は、長崎県観光連盟と連携し、首都圏等での旅行説明会・個別相談会・誘致活動等を実施。</p> <p>・平戸版 DMO 構築事業</p> <p>平戸地域の多様な方々と合意形成を図りながら、科学的アプローチを取り入れたデータ分析手法を用いて観光地域づくりを行う。そのための舵取り役として当協会を主体とした「観光地域づくり法人 (DMO)」の形成・確立を行うことで、観光事業の協働を推進し、観光を手段とした経済活動を支援し、新たな観光地形成に取り組む準備を整えてきた。2018 年度にはスタートラインにつくための組織体制 (プラットフォーム) の再整備、2019 年度は「日本版 DMO 候補法人」への登録、2020 年度は「観光地域づくり法人 (DMO)」への本登録に向けた準備・申請を行い、当協会の組織強化と人材育成、関連事業を推進した。また、今後 3 年間の指針となる「平戸版 DMO 構築計画書」を取りまとめも行った。</p> <p>1. 平戸版 DMO 全体設計事業</p> <p>本事業に当たっては、経験豊富なプロジェクトマネジャーを配置し、事業の進行及び、事業の成果に責任を持つ役割を担った。現地スタッフ (平戸観光協会・平戸市役所職員) との作業分担や事業進捗把握を目的とした定例会の開催、関係団体 (平戸商工会議所・平戸市商工会、宿泊事業者、観光関連事業者、漁業者・農業者、平戸観光ウェルカムガイド、NPO その他組織、大学、金融機関等) との連携・調整を目的とした「平戸市観光戦略協議会」・「4 つのワーキンググループ」・「DMO 推進室」の会議開催等を通じて本事業の円滑な運営をおこなった。</p> <p>a) 日本版 DMO の組織の概要設計 b) マーケティング・マネジメントする区域の決定 c) ブランドコンセプトの策定 d) 運営組織の検討・決定 e) 事務局内の体制構築と事業推進の課題整理 f) ワーキンググループの検討・設置 g) DMO 推進委員会の検討・設置 (平戸市観光戦略協議会へ移行) h) 平戸市役所観光課とのプロジェクトチームを結成</p> <p>【事業内容】</p> <p>○コンセプト決定 → 六感ゆさぶる島 ○4 つのワーキンググループの立ち上げ・協議事項の整理、会議資料作成 ○多様な関係者との合意形成 → 平戸版 DMO 推進室の設置 ○プラットホームの意思決定の仕組みの構築 → 事務局機能の再構築 ○地域住民に対しての意識啓発・参画促進 → 講演会や意見交換会の実施</p> <p>2. マーケティング誘客戦略策定事業</p>
--	--	---

		<p>DMOの運営に係るKPI（重要業績評価指標）を設定するため、必要となるデータ収集を行った。その際に平戸市観光統計や平戸観光協会にて実施した調査事業の結果を活用するものとし、また収集したデータに基づき、KPI、PDCAサイクル、プロモーション、安定的・継続的な組織運営のための資金確保、関係者の合意形成について検討プロセスを明らかにしたうえで、2020年度以降の事業実施に向けた仕組み作りや体制の構築を行った。</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種データ等の継続的な収集・分析 ○データに基づく明確なコンセプトを持った戦略の策定 ○KPIの設定とPDCAサイクルの構築作業 ○DMOとしての2020年～2023年の短期事業計画立案 ○地域の観光関連事業者との戦略の共有の仕方 ○サービス提供の仕組みや体制の構築 <p>3. 情報発信・プロモーション・地域づくり事業</p> <p>DMOの事業実施計画に基づき、情報発信・プロモーション・地域づくりに関して試行的事業（パイロット事業）を行うこととし、事業の企画・運営、事業成果の評価に関して、一連の取り組みとして実施した。</p> <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信 → 全国への情報発信 ○地域一体となった戦略に基づくプロモーション → ひらめ・あらのプロモーション ○地域住民一体となった地域づくり → ワーキンググループでの協議 ○外国人観光案内所としてJNTO認定「カテゴリー1」への登録 <p>4. 運営資金確保のスキームづくり事業</p> <p>DMOが安定した経営を行っていくために、安定的・継続的な組織運営のための資金確保の確立を目的とした事業の検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> a) DMOが自律的・継続的に活動するための安定的な運営資金が確保される見通しがあることが求められているので、運営資金確保のスキーム作りを実施 b) 資金確保の手段として、収益事業（物販、着地型旅行商品の造成・販売等）、特定財源（法定外目的税、分担金）、行政からの補助金・委託事業等についての検討 <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○着地型旅行商品の造成・販売、WEB売店の検討・構築 ○行政からの補助・委託事業の再検討、指定管理受注の検討 ○観光ファンド等の資金活用の検討 <p>5. DMOのKPI設定に係る調査・データ分析事業</p>
--	--	---

		<p>平戸市観光満足度調査は、平戸市を来訪した観光客に対し、平戸市の「満足度（総合満足度及び項目別満足度）」「属性（性別、年代、居住地等）」「再訪率」「再訪意欲」及びその他重要と思われる項目を調査しその調査結果を集計分析することで、観光動向を可視化し、今後の観光振興策に繋げることを目的として事業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 各種データ等の産学連携による調査・分析・観光的アプローチからの検証作業の実施 b) データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略の策定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018～2019 年度は、事業を踏まえた P D C A サイクルの確立を行った。 ・ 2020～2022 年度は、更なる D M O の推進に向けて講演会・シンポジウムの実施のほか、アンケート解析システムの構築、アルベルゴ・ディフーズの視察等を実施した。
	観光資源の磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行商品化事業 <p>2018 年度は世界遺産登録を記念した旅行商品として、「中江ノ島クルーズ」「旅行会社向け春日マイクロバスツアー」を新規造成し販売を行った。予想を上回る来訪者でツアー参加者も目標を大幅に更新した。販促活動に関しては、Web 上での紹介や各地の旅行会社へのセールス活動により周知し、予約販売の拡充を図った。また個人客向けに旅行商品を Web 上で予約販売が行えるシステムの構築を完了した。サイクリングロードのコース策定では元プロレーサーを含むサイクリストを招聘し、コース策定の実地踏査を実施して商品化を行った。また、自転車の保管等協力店に協力を集り、特設 Web ページやチラシを作成して、福岡県内の関係ショップに配布し広報に努めた。</p> <p>2019 年度は、これまで推進してきた地域特性を活かした着地型旅行商品「平戸キリシタン紀行」の継続と合わせて、新規の企画旅行商品の造成に着手し、観光施設や宿泊施設と連携した魅力的なプログラムを設定し、新たな来訪ニーズの掘り起こしを行った。地域素材を活用したプログラムを集約し旅行商品化した「平戸満喫ツアー」を、年 2 回発行・販売することで、来訪客の滞在目的づくりと、滞在時間の確保による経済的波及効果を図った。</p> <p>2020 年度はコロナ感染症拡大のため、その対策として「AI と有スタッフ対応のチャットボット」の導入を 12 月から行った。これは、観光客からの質問をホームペー</p>

		<p>ジ上で AI が回答する仕組みで、案内所における有人対応を軽減する役割がある事業である。またこのシステムには、アフターコロナを見据えて、多言語（日・英・簡・繁・韓の 5 言語）による対応が可能で、インバウンドからの質問にも回答できるものである。</p> <p>2021～2022 年度は、中江ノ島クルージングやレンタサイクル等の着地型旅行商品の推進を行った。</p> <p>・滞在型プログラム事業</p> <p>2018 年度は、富裕層向けの滞在型旅行商品を開発し、2019 年度からの本格的な販売を行った。商品化したパンフレットを用い試験的にホームページに掲載して、モニター客の集客を行ってみたところ、248 人の参加があった。例年開催の「平戸天然あら鍋まつり」「平戸ひらめまつり」では、内容に改良を加えるとともに、レンタカーのキャッシュバックキャンペーンとの連携や、長崎県庁ロビーでの宣伝プロモーションを行うなど、誘客のための工夫を試みた。</p> <p>2019 年度は平戸に訪れる観光客の滞在時間を確保するため、経済的波及効果も確保しつつ顧客満足度を高めることで、再来訪につなげていくプログラムの再構築と開発を行った。特に「ひらめまつり」「あら鍋まつり」「平戸和牛」「平戸スイーツ」など、平戸の多彩な食を活かした既存プログラムの再構築では、日帰り利用に有功な飲食店情報を紹介するマップを掲載したり、好みの飲食店、好みの料理を選びやすくするためのメニュー情報を工夫したりして来訪促進を心がけた。また、レンタカーのキャッシュバックキャンペーンとの連携や、マスコミを集めた宣伝プロモーションを行うなど、来訪客確保のための工夫を試みた。</p> <p>2020～2022 年度は、滞在時間の延長を目的として、世界文化遺産「中江ノ島」や平戸大橋・生月大橋など、景観を海から楽しめる回遊ルートとして海のホッピングルートの開発、歴史遺産である「オランダ商館」「平戸城」を夜間ライトアップし、ナイトミュージアム事業や市内周遊ナイトバス運行事業を実施した。</p> <p>また、平戸の歴史や伝統的な風土等の特徴を活かし観光周遊する「フォトロゲイニング」構築のほか、平戸独自の食文化「FIRANDO の食」をテーマとした食文化体験コンテンツ「ガストロノミーツーリズム」の開発や、アクティビティ・文化体験・交流の 3 つの要素を取り込んだ「アドベンチャーツーリズム」等の高付加価値化事業にも取り組んだ。</p>
--	--	--

【定量的な評価】

情報発信事業（メディア展開）

2018 年度

◆テレビ等放送実績／延べ 34 回

◆雑誌・新聞等掲載／延べ 43 回

2019 年度

◆テレビ等放送実績／延べ 26 回

◆雑誌・新聞等掲載／延べ 47 回

2020～2022 年度

◆テレビ等放送実績／累計 延べ 110 回

◆雑誌・新聞等掲載／累計 延べ 136 回

情報発信事業（インターネット展開）

◆2018 年度の HP 閲覧数：目標／30%UP ⇒ 実績／18.6%UP

2019 年度の HP 閲覧数：目標／30%UP ⇒ 実績／18.9%UP

2020 年度の HP 閲覧数：目標／30%UP ⇒ 実績／-10.0%

2021 年度の HP 閲覧数：目標／30%UP ⇒ 実績／-66.0%

2022 年度の HP 閲覧数：目標／30%UP ⇒ 実績／165.7%UP

◆2018 年度の P V 数：目標／30%UP ⇒ 実績／63.7%UP

2019 年度の P V 数：目標／30%UP ⇒ 実績／21.8%UP

2020 年度の P V 数：目標／30%UP ⇒ 実績／-10.0%

2021 年度の P V 数：目標／30%UP ⇒ 実績／110.5%UP

2022 年度の P V 数：目標／30%UP ⇒ 実績／308.2%UP

国際交流事業

2018 年度

◆台湾親善訪問参加人数：27 人（前年参加者：25 人）

◆鄭成功まつり参加人数：319 人（前年 283 人）、内外国人 34 人

2019 年度

◆台湾親善訪問参加人数：14 人（前年参加者：27 人）

◆鄭成功まつり参加人数：377 人（前年 319 人）、内外国人 56 人

2020～2021 年度 新型コロナウイルス感染拡大により中止

2022 年度

◆鄭成功まつり参加人数：20 人

国際観光誘客事業

2018 年度

◆誘致セールス活動

・ 韓国の旅行会社：釜山市・ソウル市（10 社訪問）

・ 台湾の旅行会社：台北市（10 社訪問）

・ 香港の旅行会社：香港（7 社訪問）

・ タイの旅行会社：バンコク（14 社訪問）

・ シンガポールの旅行会社：シンガポール（6 社訪問）

◆情報発信事業

・ 韓国語版ホームページの制作・リリース

・ 韓国人観光客向け四季観光パンフレットの制作

（年 4 回制作、韓国旅行社 81 社に配布）

◆招聘事業

・ 中国無錫市旅行者業協会及び起業化集団の平戸視察

- ・中国蘇州市「蘇州中旅国際旅行社」の平戸視察
- ・フィリピンマニラ市の旅行会社による世界遺産関連視察
- ◆商談会・旅行博でのブース展開
- ・「ツーリズム EXPO ジャパン 2018」併催『VJTM2018』への参加
- ・「釜山国際観光展 2018」でのブース展開

2019 年度

◆誘致セールス活動

- ・韓国の旅行会社：釜山市・ソウル市（9社訪問）
- ・台湾の旅行会社：台北市（6社訪問）
- ・香港の旅行会社：香港（2社訪問）
 - ・中国の旅行会社：南京市、無錫市、蘇州市、上海市（16社訪問）
- ・タイの旅行会社：バンコク（10社訪問）
- ・フィリピンの旅行関係機関：マニラ市（8社、高校2校訪問）

◆情報発信事業

- ・韓国語版モバイルウェブページの制作
- ・韓国人観光客向け四季観光 WEB 版の制作・配信
- ・中国語（繁体・簡体版）ホームページの制作・リリース

◆招聘事業

- ・韓国5大ネットワークTV局であるCBSの社長以下VIPの平戸視察の実施
- ・中国クルーズ関係のランド社の平戸視察の実施

◆商談会・旅行博でのブース展開

- ・九州観光推進機構と連携したフィリピンでの観光情報説明会を開催
- ・JNTO 主催のインバウンド振興フォーラムへの参加と個別相談の実施

◆大型クルーズ船からの誘客

船名	船社名	ランドオペレーター社 (※AGT含む)	寄港日	ツアー人数	乗客国籍
MSCスプレンドイダ	MSCクルーズ	ジャパネットクルーズ	5月12日	204	邦人
ばしふいっくびいなす	日本クルーズ客船	船社OP (日本クルーズ客船)	5月14日	45	邦人
コスタ・ネオマンチカ	コスタ・クルーズ	JTB九州	5月15日	92	欧米系
MSCスプレンドイダ	MSCクルーズ	ジャパネットクルーズ	5月21日	174	邦人
MSCスプレンドイダ	MSCクルーズ	ジャパネットクルーズ	5月30日	239	邦人
コスタ・ネオマンチカ	コスタ・クルーズ	JTB九州	6月27日	70	欧米系
MSCスプレンドイダ	MSCクルーズ	中国系ランドオペレーター社	8月16日	120	中華系(中国)
スーパースター・アクエリアス	スタークルーズ	JTB九州	9月18日	57	中華系(台湾)
MSCスプレンドイダ	MSCクルーズ	ジャパネットクルーズ	9月27日	173	邦人
MSCスプレンドイダ	MSCクルーズ	ジャパネットクルーズ	10月6日	159	邦人
ダイヤモンド・プリンセス	ダイヤモンド・プリンセス	東武トップツアーズ	10月9日	40	邦人
MSCスプレンドイダ	MSCクルーズ	ジャパネットクルーズ	10月15日	179	邦人
コスタ・アトランチカ	コスタ・クルーズ	JTB九州	1月7日	362	中華系(中国)
内訳：邦人1,213人+欧米系162人+中華系539人=合計1,914人				1,914	-

※全 69 隻佐世保港に寄港中、うち 13 隻がオプションツアーにて平戸ツアーを催行

2022 年度

◆クルーズ船誘致事業

- ・松浦鉄道と地元の食・地酒を活用した商品開発 目標 50 人→実績 19 人

◆訪日外国人旅行者周遊促進事業

- ・クルージング実証事業 目標 500 人→実績 216 人

◆OTA 等専門家招聘事業

- ・招聘人数 目標 5 社→実績 7 社
- ・販売実績 目標 5 件→実績 6 件

◆モニターツアー事業

- ・招聘人数 目標 5 社→実績 8 社

・国内観光誘致事業（修学旅行誘致含む）

2018 年度

◆旅行会社セールス活動

- ・東京首都圏の旅行会社（3 回実施 18 社訪問）
- ・名古屋、関西の旅行会社（2 回実施 17 社訪問）
- ・福岡、九州の旅行会社・道の駅（4 回実施 14 社訪問）

◆修学旅行セールス活動

- ・関東地域の高校、中学校、旅行会社（1 回実施、15 箇所）

◆九州観光推進機構主催の商談会

- ・東京、名古屋、大阪、福岡で開催された商談会（4 回参加）

◆国内旅行関連セミナーへの参加

- ・DMO 人材育成セミナー（5 回参加）
- ・長崎コンシェルジュ勉強会（4 回参加）

2019 年度

◆旅行会社セールス活動

- ・東京首都圏の旅行会社（3 回実施 61 社訪問）
- ・名古屋、関西の旅行会社（2 回実施 34 社訪問）
- ・福岡、九州の旅行会社・道の駅（4 回実施 31 社、道の駅 89 か所）

◆修学旅行セールス活動

- ・関東地域の高校、中学校、旅行会社（3 回実施、144 校訪問）
- ・関東地域の旅行会社（3 回実施、29 社訪問）

◆九州観光推進機構主催の商談会

- ・東京、名古屋、大阪、福岡で開催された商談会（4 回参加）

2020 年度

◆旅行会社セールス活動

- ・東京首都圏の旅行会社（1 回実施 19 社訪問）
- ・名古屋、関西の旅行会社（2 回実施 20 社訪問）

2021 年度

◆修学旅行セールス活動

- ・東京首都圏の旅行会社（2 回実施 14 社訪問）

2022 年度

◆旅行会社セールス活動

- ・東京首都圏の旅行会社（1 回実施 9 社訪問）

旅行商品化事業

2018 年度

- ◆着地型旅行商品参加者数：目標／600 人⇒ 実績／28,587 人
- ◆安満岳登山者数：目標／1,000 人⇒ 実績／2,323 人

2019 年度

- ◆着地型旅行商品参加者数：目標／420 人⇒ 実績／522 人
- ◆レンタサイクル利用数：目標／300 台⇒ 実績／457 台

2020 年度

- ◆着地型旅行商品参加者数：目標／200 人⇒ 実績／178 人
- ◆レンタサイクル利用数：目標／300 台⇒ 実績／289 台

2021 年度

- ◆着地型旅行商品参加者数：目標／200 人⇒ 実績／194 人
- ◆レンタサイクル利用数：目標／500 台⇒ 実績／427 台

2022 年度

- ◆着地型旅行商品参加者数：目標／300 人⇒ 実績／278 人
- ◆レンタサイクル利用数：目標／700 台⇒ 実績／630 台

滞在型プログラム事業

2018 年度

- ◆平戸天然あら鍋まつり
参画店舗：12 店舗 来訪者：1,624 人（前年比 53.6%）
- ◆平戸ひらめまつり
参画店舗：23 店舗 来訪者：13,338 人（前年比 144.4%）

2019 年度

- ◆平戸天然あら鍋まつり
参画店舗：11 店舗 来訪者：1,438 人（前年比 88.5%）
- ◆平戸ひらめまつり
参画店舗：21 店舗 来訪者：12,568 人（前年比 94.2%）

2020 年度

- ◆平戸天然あら鍋まつり
参画店舗：12 店舗 来訪者：1,894 人（前年比 131.7%）
- ◆平戸ひらめまつり
参画店舗：20 店舗 来訪者：11,666 人（前年比 92.8%）

2021 年度

- ◆平戸天然あら鍋まつり
参画店舗：13 店舗 来訪者：1,998 人（前年比 105.5%）
- ◆平戸ひらめまつり
参画店舗：20 店舗 来訪者：14,841 人（前年比 127.2%）

2022 年度

- ◆平戸天然あら鍋まつり
参画店舗：11 店舗 来訪者：1,178 人（前年比 62.2%）
- ◆平戸ひらめまつり
参画店舗：21 店舗 来訪者：12,292 人（前年比 82.8%）

実施体制

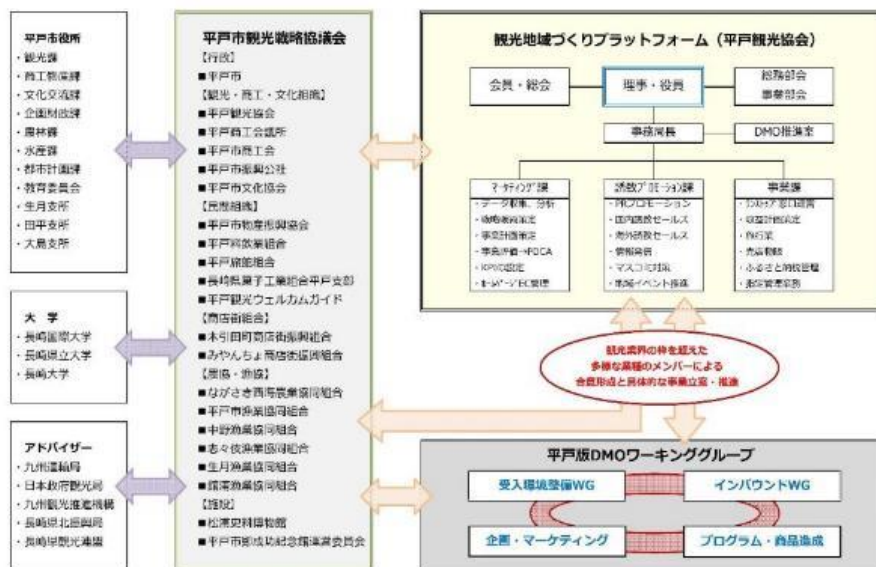
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

【実施体制の概要】

一般社団法人平戸観光協会がDMO（観光地域づくり法人）の母体となり、そのプラットフォームである理事会と事務局が連携しながら、行政や当協会の会員も参画して、観光事業関係者・宿泊事業者・交通事業者・商工事業者・農林水産事業者・市民等の多様な関係者が官民一体となり、4つのワーキンググループ（【受入環境整備WG】・【インバウンドWG】・【プログラム・商品造成WG】・【企画・マーケティングWG】）との協議・活動を重ね、観光関連事業者だけの枠を超えた、多様な業種のメンバーによる合意形成と具体的な事業立案を行う。また、平戸市観光戦略協議会の承認を得ることで、観光地域づくりの運営体制を強固なものにしている。

さらに、専門的知見を持つマネジメント責任者を定在適所に配置し、マーケティング責任者や財務責任者の仕事を明確にすることで、各種データの分析、PDCA サイクルを確立し、より効率的な事業運営を行うとともに、平戸市行政サイドとの連携を強化し、自立的・継続的に活動するための安定的な運営資金を確保していく。また各事業・取組においては、ロードマップ・アクションプラン・進捗状況（PDCA）管理表で、実施状況や目標達成状況・課題等を整理するなど、評価体制と指標の構築を進めている。

【実施体制図】



■観光地域づくりプラットフォーム：DMOの中核をなすもの（総会・理事会・事務局）

■平戸版DMOワーキンググループ：協会会員の枠を超えた様々な人々がそれぞれのワーキングで課題を協議し、事業の提案を行う場
① 受入観光整備ワーキンググループ

- ② プログラム商品造成ワーキンググループ
- ③ インバウンドワーキンググループ
- ④ 企画マーケティングワーキンググループ

■平戸市観光戦略協議会 : 平戸市長が会長を務め、各団体の長が参画して、平戸の観光活性化のための協議協議を行う場である。DMOの事業方針の連携承認機関としての役割も有する

2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【平戸市中心部】



【区域設定の考え方】

長崎県の北西に位置する平戸市は、日本の陸路（離島除く）の最西端に位置しており、大きく分けると「平戸島」「生月島」「的山大島」「度島」「九州本土の一部(田平町)」から成る。

平戸島は本土と「平戸大橋」で繋がっており、平戸島と生月島は「生月大橋」で繋がっており、車で行くことのできる島になっている。

博多から車で約2時間、佐世保市街地から約45分、ハウステンボスから約1時間、長崎市内から約2時間の場所にあり、食・文化・歴史などの観光資源も豊富であることから、前述の当協会活動実績を活かすべく、当該市域を観光地域づくりのマーケティング・マネジメントの区域として設定するのが妥当である。

また、2018年には本市の「春日集落と安満岳」と「中江ノ島」が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」としてユネスコの世界文化遺産に登録されたことや、2020年夏の開業を目指した日本初のお城の宿泊施設化(平戸城宿泊施設事業)により、国内外観光客の増加による観光産業を起点とした経済波及効果が期待できる。

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

●2018 年度の総括

2018 年度本市においては、7 月に世界文化遺産登録が実現し、国内外からの来訪者が大幅に増加した。また「平戸藩めぐりシリーズ」、「平戸城再築城 300 周年」記念イベント、プロモーションや誘致活動などで、観光客は入込客数で 0.9% 増の 177 万 1 千人、宿泊客数で 13.2% 増の 26 万 2 千人、日帰り客数は 2.1% 減の 137 万 8 千人、日帰り客数以外は対前年の数字を上回る結果となった。また観光消費額は 103 億 9 千 6 百万円となり、前年比 5.2% 増の約 5 億 1 千 7 百万円の増加となった。当協会でも補助事業等の事業方針に沿って、国内外を問わず、ホームページや SNS を活用し、タイムリーできめ細やかな情報発信を行うとともに、積極的な誘致セールスを実施した。

1. 訪日外国人（インバウンド）の状況

観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると、日本人の国内宿泊観光旅行の回数、宿泊数、延べ人数、消費額の各指標は前年比でわずかに増加しているものの、長期的には横ばいの傾向にあり、大幅な需要の増加は見込みにくい。一方、訪日外国人旅行者数（日本政府観光局発表）は、平成 25（2013）年に 1,000 万人を突破、平成 29（2017）年には 2,869 万人を超えるなど増加の一途にあり、平成 30（2018）年も約 3,119 万人となり、7 年連続で過去最高を更新した。本市における外国人観光客数は、平成 26 年からの 5 年間で大きく増加している。インバウンド客の延べ宿泊者数は、52.3% 増の 22,912 人で、特に主力の韓国、中国、香港、台湾からの観光客が前年比 159.4% 増となった。観光庁のインバウンド客動向速報によれば、長崎県へは香港からの新たな航空路線が増えたことで個人客が増加し長崎県全体で 4.5% 増加した。佐賀県（2.2% 減）を除く他の九州各県は軒並み増加しており、台湾や香港からの航空路線を有する宮崎県（15.1% 増）、鹿児島県（10.9% 増）、熊本県（8.6% 増）など、アジア諸国からの航空アクセスが大きく影響していると思われる。

2. 世界遺産登録における来訪客の状況

2018 年 7 月 4 日に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録が実現し、春日集落の拠点施設「かたりな」には多くの観光客や市民が訪れるようになった。当協会でも大型バスで入れない春日集落への誘致活動として、ガイド付きのマイクロバス運行を行い旅行会社との連携を図った。また、教会守を配置している田平天主堂へは、韓国からの巡礼団をはじめ、国内外からの来訪者が大幅に増加した。さらに、九州観光推進機構や長崎県観光連盟と連携して、国内外の商談会へ積極的に参加し、プロモーション活動や誘致セールスを実施した。

■平戸城 来訪客数	2018 年度	69,336 名（前年比 103.9% 増）
■松浦史料博物館 来訪客数	2018 年度	26,103 名（前年比 103.9% 増）
■平戸オランダ商館 来訪客数	2018 年度	31,259 名（前年比 98.5% 減）
■生月島の館 来訪客数	2018 年度	11,908 名（前年比 81.1% 減）
■田平天主堂 来訪客数	2018 年度	85,822 名（前年比 123.5% 増）
■春日拠点施設かたりな 来訪客数	2018 年度	20,185 名（団体客 4,251 名）

●2019 年度の総括

2019 年度の国内経済は引き続き緩やかな回復基調で、観光業界においては国内旅行の長期的な横ばい傾向に比べて、訪日外国人観光客の大幅な来訪増加で引続き好調であった。しかし年度末にかけて、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が甚大な影響を及ぼすこととなった。海外誘客においては、LCC（ローコストキャリア）の新規就航や定期便の増便等による航空座席供給量の増加や、桜見物やラグビーワールドカップ 2019 日本大会の開催を契機とした訪日需要の高まりもあり、日本政府観光局（JNTO）によると、令和元年の訪日外客数は、対前年比 2.2% 増の 3,188 万 2 千人となり、JNTO が統計を取り始めた 1964 年以降最多となった。当地へもインバウンド客の拡大が見込まれ、東アジア・東南アジアでのセールス活動をはじめ、欧米豪などの新規開拓の

ための情報発信など、九州観光推進機構や長崎県観光連盟と連携した商談会や観光情報説明会に参加して、積極的な誘客セールス活動を継続していく。

1. 観光動向

本市の2019年の観光客入込み者数は、1,777,493人で前年よりも0.3%増加し、宿泊・日帰り別観光客数は、宿泊客数が259,255人で前年より1.1%減少し、日帰り客が1,388,609人で前年比0.8%増となった。国内誘客においては、「平成」から「令和」への改元を迎え、ゴールデンウィークが10連休となった機会を捉えて、市内では各種イベントが行われ、全国各地から多くの観光客にお越し頂き活況を呈した。一方、例年最も入込客数が多い夏季休暇期間（7～8月）については、梅雨の長期化や大型台風の影響により、大きく減少することとなった。さらに初秋（9月～10月）にかけても台風の影響により、九州北部の記録的大雨で水害が発生し、当地においても観光面で影響を受けることとなった。誘致活動においては、全国のメディアへの観光情報のリリースに加え、首都圏、関西圏、福岡都市圏等の大都市圏でのセールス活動や、旅行会社を対象とした商談会などで、本市の魅力を積極的に発信した。また修学旅行の誘致活動においては、関東・関西のミッション系の高校や中学校を訪問し、平戸での交流プログラムを説明し誘客を図った。

2. 訪日外国人（インバウンド）の状況

外国人観光客の宿泊推移は、19,157人で前年比16.4%の減となった。原因として、ゴールデンウィークに伴う九州への旅行商品の高騰や、8月以降の韓国市場における訪日旅行自粛の動きに加え、長崎空港への航空路線の減便等の影響から、前年を下回る結果となった。国・地域別の外国人観光客の動向としては、これまでと同じく韓国が最も多く、中国、香港、台湾と続いている。前年2番目に多かった中国が大幅な増加となり韓国と僅差となったほか、香港は政治情勢の混乱の影響もあったが大きな伸びを示した。両国とも個人旅行化・訪日リピーター化の進展や、日本各地への飛行機直行便数の増加、さらには長年に亘る市民や事業者と連携した誘客活動や受入環境の充実によるものと考えられる。

■平戸城 来訪客数	2019年度	52,475名	(前年比 75.7%減)
■松浦史料博物館 来訪客数	2019年度	24,546名	(前年比 94.0%減)
■平戸オランダ商館 来訪客数	2019年度	30,891名	(前年比 98.8%減)
■生月島の館 来訪客数	2019年度	17,451名	(前年比 89.4%減)
■田平天主堂 来訪客数	2019年度	109,226名	(前年比 127.3%増)
■春日拠点施設かたりな 来訪客数	2019年度	19,924名	(前年比 98.7%減)

●2021年度の総括

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症も終息の兆しが見えはじめたことにより旅行需要も徐々に回復傾向となりました。その要因の一つに国において、令和4年10月11日より、新型コロナウイルスの水際対策が大幅に緩和されたことで、これまで外国人旅行客の入国者数上限やツアー以外の個人の外国人旅行客が撤廃されるなど、ほぼコロナ禍前の状態に戻ることとなりました。

観光庁「旅行・観光消費動向調査（令和4年 年間値）」によると、日本人国内旅行消費額は、17兆1,929億円（前年比87.2%増）、うち宿泊旅行は13兆7,559億円（前年比96.7%減）、日帰り旅行は3兆4,370億円（前年比56.9%増）、とコロナ化前の約80%までに回復している状況となっています。一方、令和4年訪日外国人旅行消費額は8,987億円（前年比743.9%増）と対前年を大きく上回る増加になったものの、新型コロナ感染症拡大前の約20%にとどまっている現状にあります。

このような中で、本協会としては観光需要拡大を図るべく、宿泊特割キャンペーンや平戸満喫キャンペーン、国の支援事業（看板商品の創出事業や訪日外国人周遊事業）、県との共同事業を実施したところです。その他、市内の様々な魅力を収めた動画を制作し、海外のホームページやSNS等で情報発信を行うとともに、国内外の観光動向をみながらオンライン会議による商談会での営業活動を展開してきたところです。令和5年度は、さらなる観光誘客を図るために、観光コンテンツの再構築や誘致宣伝を実施しながら来訪促進・満足度向上に努めます。

1. 観光動向

本市の令和4年における観光客入込み者数は1,570,642人で対前年比106.4%増加しております。宿泊客数は269,964人で対前年比145.7%増加しており、日帰り客も1,300,678人で対前年比100.8%増加となっております。新型コロナウイルス感染症が終息を見せはじめたことが大きな要因となっております。市内においても徐々に各種イベントも開催されるなど日常の賑わいを取り戻すようになってきております。

このような中で令和4年度の宿泊客が増えた要因としては、国や市のキャンペーンが継続的に行われたことの影響が強く、新型コロナウイルス感染症拡大前の約80%まで回復しているところです。日帰り客についても、行動制限が大きく緩和されたことや市内においてイベントが開催されたことで増加傾向となっており、令和5年度もさらに入込観光客は増えていくものと期待しているところです。

一方、令和4年度の外国人宿泊客は、636人で対前年比4,892.3%と大きく増加しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の約3.3%までしか回復していない状況です。しかしながら、令和4年10月に国の新型コロナウイルス水際対策が大幅に緩和されたことから、今後は、海外からの入込観光客は拡大していくものと考えられます。

■平戸城 来訪客数	2020年度	0名 (前年比 減)
	2021年度	43,171名 (前年比 減)
	2022年度	55,139名 (前年比 127.7%減)
■松浦史料博物館 来訪客数	2020年度	12,308名 (前年比 50.1%減)
	2021年度	13,494名 (前年比 109.6%減)
	2022年度	17,490名 (前年比 129.6%減)
■平戸オランダ商館 来訪客数	2020年度	15,780名 (前年比 51.1%減)
	2021年度	21,475名 (前年比 136.1%減)
	2022年度	25,005名 (前年比 116.4%減)
■生月島の館 来訪客数	2020年度	6,671名 (前年比 38.2%減)
	2021年度	6,885名 (前年比 103.2%減)
	2022年度	8,692名 (前年比 126.2%減)
■田平天主堂 来訪客数	2020年度	38,120名 (前年比 34.9%増)
	2021年度	29,301名 (前年比 76.9%増)
	2022年度	26,369名 (前年比 90.0%増)
■春日拠点施設かたりな 来訪客数	2020年度	16,646名 (前年比 79.8%減)
	2021年度	13,912名 (前年比 83.5%減)
	2022年度	13,194名 (前年比 94.8%減)

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

＜観光施設・キリスト教関連＞



平戸城

松浦家の居城として宝永元年（1704年）に築城が始まり、享保3年（1718年）に完成。平戸藩ゆかりの鎧や刀や、かくれキリシタンの品を展示。この度2020年を目標に、城のやぐらを精治施設に改装する計画を進めており、国内初の「泊まれる城」をPRして、観光客誘致に弾みをつけることを狙っています。



松浦史料博物館

平戸藩主・松浦家の旧邸宅を利用した博物館で、明治26年（1893年）築。自開貿易が隆盛を極めた時代の史料や品も展示している。敷地内には茶室・開茶亭もあり、ゆったりとくつろげる。



平戸ザビエル記念教会

寺院に取り囲まれたような天主堂は、昭和6年（1931年）に建築されたカトリック教会の建物。この一角に、来島したフランシスコ・ザビエルを記念してその立像が建てられた。これを機に、教会の名も「平戸ザビエル記念教会」になっている。



寺院と教会の見える風景

寺院並るように天主堂の尖塔が覆まれる場所。港から見上げると、光明寺。その下が稲妻寺。その光景は平戸の異国情緒の香りを感ぜさせる。この周りの石畳の階段や坂道は、古都平戸ならではの景が数歩道である。



鄭成功記念館

平戸で生まれ、後に、中国、台湾の英雄として高名な「鄭成功」が育った世界に一つしかない生家を再現し、鄭成功記念館として平成25年7月14日に開館。また、平成28年9月には、参道の入口に山門が建設された。



最教寺

「西の高野山」とよばれる真言宗の寺で、弘法大師が唐から帰国の際に立ち寄り、護摩を焚いたとも伝わる。敷地内の「雷宝鏡」では、海外貿易全盛時に当時の藩主たちが寄進した美術品を展示している。



平戸オランダ商館

海沿いに立つ白壁の建物は、平成23年に復元されたオランダ商館の倉庫。外観や構造はオランダ、屋根など一部は日本の建築の技術が使われた和洋折衷の建物。館内では平戸とオランダの交易の歴史を伝える。また最近ではコンサートや美術展でも使用され、市民の憩いの場所となっている。



幸橋（オランダ橋）

1609年（寛文9）第29代領信が、そこに木橋を架け幸橋と呼ばれた。1702年（元禄15）第30代棟が、これを石橋に改築。1600年始めオランダ商館の石造り建築に従事した石工、豊前からオランダ技法を伝授された。2014年に愛の聖地として、日本ロマンス建築より認定された。



春日の集落と安満岳

陣代時代以降、かくれキリシタンが生活を営んできた集落。暮末の集落形がよく維持されている。禁教令が解かれた後も、カトリックに傾倒せず、信仰を継承してきた。春日集落拠点施設「かたりな」では集落で継承してきた様々な資料が見学できる。



中江ノ島

平戸島と生月島の間にある無人島。禁教令により神父が捕らえられた際、世話をした信者やその家族たちがここで処刑された。生月のかくれキリシタンにとっては最高の聖地であり、今も聖水を採取する重要な場所となっている。島への上陸は不可だが、生月島の海岸沿いから島を眺めることができる。



ガスパル様

平戸と生月の間にある中江ノ島を見下ろす黒潮の丘にあるキリシタン・ガスパル西女司が慶長14年に殉教した場所。1991年にカトリック信徒によって十字架型の「黒潮の辻殉教碑」が建てられ、毎年11月14日前後にミサが執り行われている。



切支丹資料館

資料館のある根獅子地区は、キリシタン禁教以来殉教の地となったが、追及の手を逃れるため、信者達は表面上、仏教徒となり隠れてキリスト教の信仰を続けた。1873年禁教令が解かれたが、納戸神（潜伏切支丹）の信仰が続いていた。1982年に当館を建設し、資料を収集展示し、保存に努めています。



田平天主堂

大正4年から5年の歳月をかけて、信者達の手によって建設されたロマネスク様式の荘厳な赤レンガづくりの教会。教会堂棟梁・秋川与助の代表作。教会の傍には歴代の信者が眠る墓地があり、辺り一帯の風景は日本を遠く離れた異国の地を感ぜさせる。



紐差教会

大規模な天主堂で、旧浦上天主堂が原爆によって倒壊した後は、日本最大天主堂といわれた。外部はロマネスク様式で、内部にはアーチと美しいステンドグラスがほめ込まれ、秋川与助（設計者）の特徴である花柄の模様が登場に飾られている。



宝亀教会

1885年（明治18）京崎地区に最初の仮教会が設けられ、1898年（明治31）に現在の宝亀教会が建立された。あまり大きな教会ではないが、平戸を代表する美しい教会である。



山田教会

山田集落の高所に築き、1912年に秋川与助の手により完成したレンガ造りの教会。建立100年（2012年）にリニューアル。創設のレンガ造りは100年前の秋川与助が作った当時のもの。

<自然・食>



川内峠

標高約200mの場所に広がる長崎県を代表する大草原。頂上から展望は素晴らしい。東に九十九島、北に玄海灘。遠くは室積・対馬が望める。毎年2月上旬に「野焼き」が行われ、広大な草原に炎が広がっていく様子は圧巻である。



根獅子海水浴場

平戸で最も人気のある海水浴場のひとつ。日本の水浴場88選に選ばれ、その透明度、美しさは素晴らしい。夏場は多くの海水浴客で賑わう。



人津久海水浴場

平戸大橋から車で約30分の、根獅子海水浴場と並ぶ美しさの海水浴場。「死ぬまでに行きたい世界の絶景・日本編」にも選ばれている。



生月サンセットウェイ

海を見れば青い恋シノ海、山を見れば太平洋の孤島を思わせる断崖があり、水平線を眺めながら走ることができる絶好のドライブルート。自動車メーカー各社のCMOQ地としても有名。



大バエ灯台

生月島の最北端に位置し、80m幅切り立つ大バエ断崖の上につつ白亜の無人灯台。この灯台には全国でも珍しい展望所が設置されており、海と空が溶け合う雄大さですばらしい景観が眺望できる。また、岬の麓部分にはなだらかな草原になっておりはまゆうの群生地がある。



塩俵の断崖

あたかも柱がいくつも立っているような不思議な形をしている塩俵の断崖。南北に500メートル、高さ約20メートルの規模があり、その見事な景観は、長崎県新観光百選にも選ばれている。



平戸大橋

1977年4月4日に有料道路として開通した平戸島と向平町を結ぶ朱塗りの吊り橋。4年の歳月と、56億円をかけて架けられた。橋は全長665m、トラス吊橋構造で主塔間465.4m、幅10.7m、海面上30mに吊られている。大橋の下には公園があり、洋風庭園や遊具広場が整備されている。



生月大橋

1991年7月31日開通。平戸島の北西に位置する生月島との往来が可能になった。全長960m、幅6.5m、海面上3.1m、主要部800mの3径間連続トラス橋が採用されており、中央径間の支間400mは、この形式では世界一。橋を渡った辺り一帯は、大橋公園として整備されている。



平戸天然ヒラメ

平戸市は日本有数の天然ヒラメの水揚げ高を誇る。五島灘の荒涼にもまれ、コリコリッとした身の締まった品のよい白身が特徴で、中でも1キロサイズ以上のものは「平戸ひらめおがみ」としてブランド認定され、市内の飲食店やホテル・旅館で開催される「平戸ひらめ祭り」などを過ごし、喜宴にファンを増やしている。



平戸天然クエ

“幻の魚”と言われる超高級魚。11月頃から旬を迎え、刺身や精進料理に特に美味とされている。成魚は全長60cm程度でまれに全長が1m、体重30kgを超える大型のものが釣れます。潮流の速い岩礁帯に群をつくらず澄んで暮らすため釣り上げるには「名人技」が必要で「幻の魚」と呼ばれている。



ウチワエビ

体が扁平で頭が尻尾（うちわ）に似ているため、「うちわえび」と呼ばれている。殻は不格好ですが、海老の王様・伊勢海老にも匹敵するほどの絶品です。刺身のほか、天ぷらに塩茹、味噌汁など、調味法も様々に楽しむ。殻と殻に挟ったわずかな身や内臓から良質のダシがとれ食感を彩らせる味わいだ。



トビウオ（アゴ）

平戸を代表する魚。ほとんどが「塩干し」や「焼きたこ」に加工されるが、定番焼で焼かれたアゴは、刺身に山椒を加えた酢味噌で食べるとたいへん美味しい。最近では、アゴのダシ入りつゆや、粉末だし、出しパックなどが販売されるようになり、テレビ番組でも、良質のダシとして取り上げられている。



ヤリイカ

独特の甘みがあり刺身として最高級品。新鮮さが一目でわかるイカの活き造りは、ご当地ならではの逸品。まるやかな甘みと引き締まったコリコリの食感が楽しめる。イカ類は季節とともに種類とサイズが変わるが、春を代表する味覚がヤリイカだ。



平戸牛

平戸における放牧の歴史は1200年以上も前の記録が残っており、昔から黒毛和牛の産地として知られている。平戸は、穏やかな気候と潮風が吹く、放牧に適した環境で、そこで育つ平戸牛は、但馬牛や松阪牛など全国区のブランド牛と比べてもけっして遜けをとらず、そのファンは全国に広がっている。



平戸米

平戸はほとんどの水田が棚田であり、「出水」と呼ばれる山間部に自然にしみ出る水や川の水を利用して米を栽培している。棚田の米がおいしく上質であることは科学的にも証明されており、「掛け干し米」や、ホタルが生息する川の水により栽培された「ホタル米」は、市内の直売所などで販売されている。



いちご

1830年頃オランダ人により長崎に持ち込まれ、当時は「オランダいちご」と呼ばれていた。平戸市では、ワインレッドが特徴で安定した産地と味が自慢の「さちのか」「ゆめののり」を主に栽培し、11月中旬から翌年5月まで約半年間の収穫を行っている。

<島の魅力・伝統芸能>



生月町博物館島の館

現在も継承されているかくれキリシタン信仰の聖画や行事、生月島の歴史を知ることができる。また江戸時代の鯨組の豊富な資料や捕鯨法を紹介している。



大島地区の伝統的建造物

大島神浦の町並みは、江戸時代捕鯨の創業を契機として大きく発展した。漁師のほか商人や職人が多く居住し、漁業と商工業を経済基盤とし豊かな町並みが形成された。



大島の大賀断崖

大島の大賀断崖は、最東端に位置し、壮大な景色を望むことが出来る。断崖の真上は広々とした草原で、1年中無料開放され、展望台・炊事棟も整備されている。



度島のキリシタン千人塚

度島では松浦鎮の命により、家来によりキリシタン討伐が行われ、多くの死者が出たとされる。島の中央部にある千人塚は彼らを弔う墓で、供養のための地蔵もある。



平戸神楽

平戸神楽の由来は、元亀年間に松浦氏の領地となった吉岐の神職が、平戸の松浦氏の居城をおとすれ、吉岐の御霊祭の神楽を舞い、平戸の神職も加わって神楽が行われるようになった。



平戸ジャンガラ

神社仏閣に踊りを奉納し、雨乞いや五穀豊穡を祈願します。伝承されているのは城下組、下組、大下組の9地区です。城下組では中踊りが1人、下組・大下組では2人が中心になって踊ります。



生月勇魚捕唄

江戸時代から明治時代にかけて各地で捕鯨がおこなわれていた。生月島は益富組の本拠地で、当時歌われた鯨唄「生月勇魚捕唄」が継承されている。捕鯨の場面を表した歌詞を、野太い声で唄い上げる。



大島須古踊り

大島の須古踊は天正2年(1574年)、現在の佐賀県白石町にあった須古妻木城が落城し大島に逃れた平井一族が郷里をしのんで踊り伝えたといわれています。



オラシヨ

キリシタン時代に宣教師たちによって伝えられた祈りの言葉はオラシヨと呼ばれ、潜伏時代にも連続と受け継がれ今日に至っている。かくれの諸行事の根幹はこのオラシヨを唱えることにある。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

エリア	ホテル・旅館等				ビジネスホテル				民宿・ペンション等				ゲストハウス・一棟貸				合計			
	施設数	客室数	収容人数		施設数	客室数	収容人数		施設数	客室数	収容人数		施設数	客室数	収容人数		施設数	客室数	収容人数	
			個人	団体			個人	団体			個人	団体			個人	団体				
平戸北部	10	452	1,650	1,614	2	54	87	87	6	30	91	118	4	13	45	45	22	549	1,873	1,864
平戸中部	1	7	20	30	-	-	-	-	1	3	-	-	2	3	11	11	4	13	31	41
平戸南部	-	-	-	-	-	-	-	-	7	37	121	163	-	-	-	-	7	37	121	163
田平	3	47	176	186	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	10	10	4	48	186	196
生月	5	39	90	117	-	-	-	-	1	3	12	12	-	-	-	-	6	42	102	129
大島	1	8	23	30	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	10	10	2	12	33	40
	20	553	1,959	1,977	2	54	87	87	15	73	224	293	8	21	76	76	45	701	2,346	2,433
その他	2	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-	-	11	-	-	-

令和4年イベント一覧表

(単位：人)

No	区分	日付	内 容	人 数		備 考
				R4	R3	
1		通年	平戸キリシタン紀行	481	13,715	平戸市内
2	冬めぐり	1月22日～3月31日	平戸天然ひらめまつり	14,841	13,338	市内の参画宿泊施設・飲食店
3		2月3日	子泣き相撲	中止	中止	最教寺
4		2月7日	川内峠野焼き（関係者のみ参加）	0	0	川内峠
5		2月20日・21日	田平つばき物産展	中止	中止	たびら活性化施設
6		3月12日～31日	SWEETS HIRADO FAIR（スイーツ平戸フェア）	6,865		平戸市内
7		3月12日～27日	おかしな街の謎解きゲーム	1,050		平戸市内
8		3月26日・27日	平戸瀬戸市場誕生祭	3,200	中止	平戸瀬戸市場
9		春めぐり	3月下旬～4月上旬	県立田平公園さくらまつり	3,000	中止
10	4月中旬		お庭めぐり	中止	中止	武家屋敷（7会場）
11	4月29日・30日		kidsジョブチャレンジ2022in平戸	1,934	中止	平戸市内
12	4月下旬		たびら春まつり	中止	中止	田平港シーサイドエリア広場
13	4月30日・5月1日		あつつあつつ川内かまぼこフェス	400		川内町
14	5月3日		いきつき春の白月市	700	中止	館浦ふれあい広場
15	5月3日～5月5日		平戸海道渡海人祭	9,954	中止	平戸大橋公園
16	5月上旬		お魚まつり	中止	中止	志々伎漁協
17	5月28日～5月30日		津吉茶市	中止	中止	津吉地区
18	5月29日		按針忌（献花のみ実施）	20	0	崎方公園按針塚
19	5月下旬	中津良川ホテルまつり（鑑賞のみ開催）	0	0	中津良川一帯	
20	夏めぐり	7月14日	郷成功まつり（神事のみ開催）	15	0	川内町
21		7月17日	スポGOMI甲子園・スポGOMI大会2022in平戸	467	356	千里が浜海水浴場
22		7月下旬	館浦競漕船大会	中止	中止	館浦地区
23		8月上旬	コックスフェスタ	中止	中止	木引田町
24		8月上旬	平戸港夏まつり	中止	中止	平戸港交流広場
25		8月12日	大島村夏祭り花火大会	550	中止	的山の港埋立地
26		8月17日	たびら夏祭り	中止	中止	田平港一帯
27		9月17日～11月30日	第2弾 おかしな街の謎解きゲーム	830		崎方町
28		9月18日・10月9日	第2弾 あつつあつつ！かまぼこ謎解きゲーム	90		川内町
29	秋めぐり	10月8日・9日	ひらどツーデーウォーク2022	1,026	中止	生月町・平戸北部・田平町
30		10月22日・23日	平戸くんなら城下つんの一で祭	9,253	6,106	平戸市商店街

①令和4年イベント一覧表

(単位：人)

31	秋めぐり	11月上旬	大島村ふるさとまつり	中止	中止	大島村公民館前広場
32		11月20日	いきつき勇魚まつり	1,650	中止	生月支所前漁港広場
33		11月26日・27日	平戸瀬戸市場「秋の収穫祭」	3,400	中止	平戸瀬戸市場
34	冬めぐり	11月1日～1月31日	平戸天然あら鍋まつり	794	1,998	市内の参画宿泊施設・飲食店
35		11月19日～1月15日	平戸城下ナイトミュージアム	12,167		平戸城下
36		12月3日～1月9日	光のフェスタ2022	5,550	中止	田平公園
		合 計		78,237	35,513	

【利便性：区域までの交通、域内交通】

〈区域までの交通〉

※各地からの最速時間

- 福岡市内・長崎市内から平戸市まで高速道路を利用して、車で約2時間
- 博多駅・長崎駅から佐世保駅まで、JR 東日本利用で約2時間、佐世保駅からたぴら平戸口駅まで、松浦鉄道利用で約1時間
- 東京から福岡空港・長崎空港まで、飛行機で2時間弱
- 名古屋から福岡空港・長崎空港まで、飛行機で1時間25分
- 大阪から福岡空港・長崎空港まで、飛行機で約1時間15分
- 福岡空港から平戸市まで、車で約2時間
- 長崎空港から平戸市まで、車で約1時間30分



〈域内交通〉

- 公共交通機関については、鉄道は未整備となっている。島内に到着してから目的地まで移動手段の確保が必要である。主にタクシー・路線バスの利用となり、路線バスは市内の主要道を走っているが、便数の少ない路線もあり、目的地に合わせたダイヤ確認が必要。また、各観光案内所等においてレンタサイクルの貸出を行っている。また、レンタカーの保有台数は少ないが一応業者から借りることもできる。

【外国人観光客への対応】

- ◆観光施設や大型宿泊ホテルには、公衆無線 Wi Fi の設置がなされている。
- ◆韓国人観光客向け四季観光パンフレット（年4回制作、韓国旅行社81社に配布）
- ◆外国人観光客向け街歩きマップ（英語版・中国語版を用意：クルーズ乗船客に優先配布）
- ◆多国語表示看板の順次設置（Uni-Voice コードを使った多言語表示を2020年度事業で実施）
- ◆外国人向け着地型旅行商品の造成（現在、茶道・着付け・漁師体験などが利用可能）
（現在、トレッキングコースやカヤック、乗馬など、自然を活用したメニューを開発中）
- ◆外国人観光客向けモバイルウェブページの拡充（2020年度中に英語版を整備予定）
- ◆外国人による、平戸のマーケットリサーチを実施（2020年度事業）
 - ①外国人モニターの一日体験旅行を通して善し悪しの意見を「見える化」
 - ②外国人モニターの感想等をヒアリングし意見集約を行うことで、環境整備の材料とする
 - ③ 調査内容を参考に外国人のための平戸観光プロモーションの施策を検討
 - ④ モニター対象者：九州在住の外国人10名（なるべく多国籍の外国人を起用）
 - ⑤ 旅行の発着地点：福岡県（流入する観光客の多いルートを選定）
 - ⑥ 旅行の内容：モニター本人が自ら日程・観光地・飲食店を選定（個人旅行の感覚で実施）

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光動向の把握、誘客を図る各種施策の効果検証、今後の戦略策定のため。	当協会独自アンケート調査・聴取調査の実施や、市が実施する調査結果を利用する。
延べ宿泊者数	〃	〃
来訪者満足度	受入環境整備、今後の戦略策定、マーケティングに活用するため。	〃
リピーター率	顧客満足度向上の為の施策の効果検証のため。	〃
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	当協会ホームページを活用した調査を実施する。(Google アナリティクス等により収集)
住民満足度	住民の関心度や施策の効果等を把握するため。	平戸市が実施する調査結果を利用する。

4. 戦略

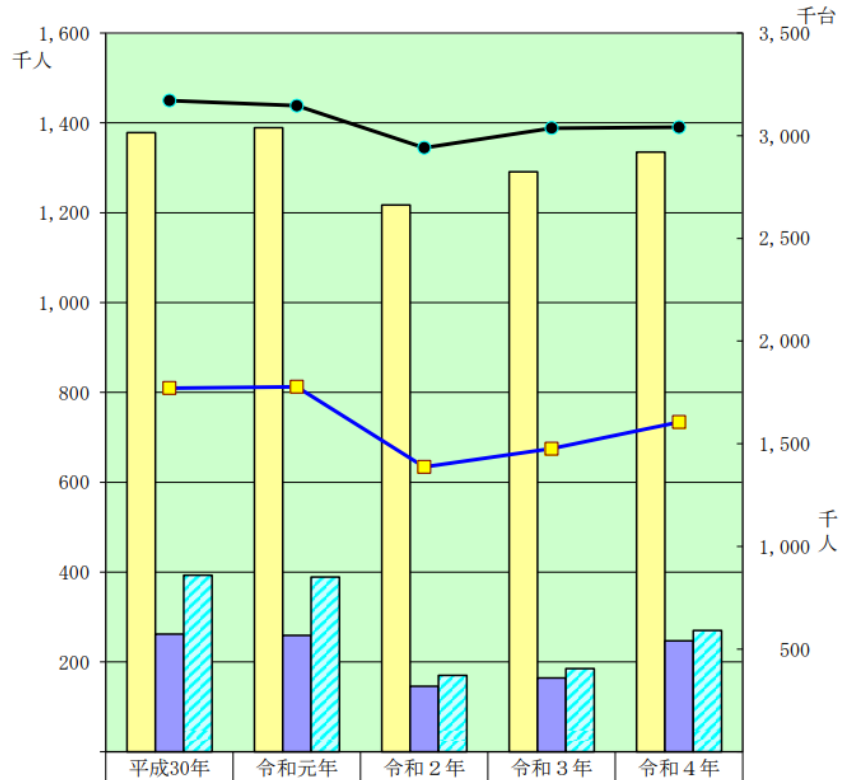
(1) 地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

長崎県内でも有数の観光地として観光客を迎えてきた平戸市は、市町村合併が行われた平成 17 年(2005 年)での入込観光客数は約 161 万人だったものが、令和元年(2019 年)には約 177 万人と大きく増加しているものの、宿泊客は、平成 17 年(2005 年)に約 27 万人だったものが、令和元年(2019 年)では約 25 万人と減少、しかしながら観光消費額は 10,460 百万円となっており、地域経済の一翼を担っているところである。一方、平戸市の人口も市町村合併後、人口減少が続いており、特に、若年層の人口流出が著しく、人口減少に一層の拍車をかけており、平戸市における生産年齢人口の割合も 51.0%と全国平均の 60.7%を大きく下回っており、今後、基幹産業を支える就業人口がさらに減少することが懸念されている。

こうした背景の中で、観光業は平戸市の重要な基幹産業の一つであり、観光業の浮揚は今後の本市の発展には欠かせないものとなっており、平成 29 年度末に策定された平戸市未来創造羅針盤(第 2 次平戸市総合計画)において、DMO を推進することで地域課題の解決を図っていくこととしている。DMO は、域外からの観光客を誘致し、交流人口を増やすことで、地域の「稼ぐ力」を生み出しながら、多様な地域の関係者との連携や自律に向けた収益事業の強化が求められている。本市でも(一社)平戸観光協会が主体となり、令和元年 1 月には「観光地域づくり(DMO)候補法人」の登録を受けたところである。今後は、平戸にしかない観光資源である日本 100 名城初の「城泊」と長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産「平戸の聖地と集落(中江ノ島と安満岳)」を核に、地域の多様な文化を活かしたコンテンツを構築しながら、行政と(一社)平戸観光協会が密に連携し DMO 推進を図ることで、地域活性化へ繋げることとしている。

※平戸市への観光客の推移（令和4年平戸市観光統計より出典）



日帰客数	1,378	1,389	1,217	1,291	1,335
宿泊客数	262	259	146	164	247
宿泊客延滞数	393	389	170	185	270
観光客数	1,771	1,777	1,387	1,476	1,605
平戸大橋通行台数	3,171	3,146	2,941	3,037	3,041

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <p>・自地域で積極的に活用できる強みは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■島ならではの豊かな自然・景観 ■島ならではの豊かな歴史・文化 ■島ならではの豊かな食資源 ■世界遺産の「春日集落と安満岳」「中江ノ島」 ■日本初の「城泊」 ■平戸城リニューアルオープン ■福岡都市圏内から車で2時間の好アクセス ■佐世保市からのクルーズ船客の流入 ■個人旅行に適したまちのコンパクトさ ■市民の気さくさ・おもてなし ■「あなたへ」等映画・ドラマ・CMのロケ地としての知名度 ■日帰り客の増加 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <p>・自地域で改善を必要とする弱みは何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■宿泊客数の減少 ■宿泊施設の老朽化 ■人口が減少している ■少子高齢化に伴う若者の人手不足 ■市内中南部への観光客の流れが少ない ■着地情報・広域観光情報の発信不足 ■外国人観光客受入体制の不足 ■多言語対応設備・ガイドが不十分 ■繁忙期の宿泊収容能力の限界 ■バリアフリー対応が遅れている ■滞在型・交流コンテンツの不足している ■九州主要都市からの2次交通が不便 ■市内アクセスが不便 ■主に宿泊施設等観光関係事業者のサービス・おもてなしレベルが低い
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <p>・自地域にとって追い風となる要素は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■訪日外国人旅行者の増加 ■アジアから福岡空港への直行便の多さ ■中国クルーズ市場の拡大に伴う寄港数増 ■円安によるインバウンドのさらなる拡大 ■西九州自動車道の整備 ■民間による民泊施設の増加 ■キリスト教巡礼のための来訪客増加 	<p>脅威 (Threat)</p> <p>・自地域にとって逆風となる要素は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ■国内旅行者の減少 ■国内の宿泊旅行者の減少 ■国民の旅行関連支出の減少 ■少子高齢化の進行に伴う若手担い手不足 ■若年層の地元定着率の低さ ■観光産業の担い手不足 ■観光ニーズの多様化や、メディア等の多様化等による情報発信手段の変化への対応 ■空港等からのアクセス ■国内外他都市との競合激化

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

(3) ターゲット

○第1ターゲット層（国内） 福岡都市圏の個人旅行者・団体旅行者、40～60代の男女（夫婦、小グループ）
○選定の理由 福岡市中心部から高速道路を利用すると、車で約2時間という好アクセスであることから、他地域と比較しても当該ターゲット層の来訪が多く、また市場としても今後拡大傾向にあるため。
○取組方針 満足度調査の分析などにより再来訪意向につながる要因を分析し、その結果に基づいてターゲット層に強かに訴求できるコンテンツの開発・磨き上げを行う。特に農水産事業者と連携を図り、「食」の提供や「体験」プログラムの開発を推進していく。

個人旅行者に関しては、「食」・「自然」を求めて来訪する方が多数を占めるので、本市で可能な体験メニューや食の提供の仕方のさらなる研究で、誘客・宿泊を促進していく。
団体客の中でもシニア層に関しては、主に「歴史・文化」「食」のコンテンツを、またそれ以外の若年層に関しては「体験」のコンテンツをプロモーションしていく。

○第2ターゲット層（国内）

長崎県及び九州域内の個人旅行者・団体旅行者、40～60代の男女（夫婦、小グループ）

○選定の理由

第1ターゲットに次いで来訪が多く、市場としても拡大傾向にあるため。

○取組方針

第1ターゲット層への取組方針と同じく、「食・自然」を求めての来訪者が多いため、それら目的となる観光素材に磨きをかけていく。同じ九州地域の観光コンテンツとして似通ったものになりがちだが、「山」がテーマの自然を活用した地域との相違として、長崎県は海に囲まれており、当然本市も「海」をテーマとしたコンテンツの開発・磨き上げを交通事業者と連携し積極的に推進する。

○第3ターゲット層（国内）

関東・関西等都市圏の個人旅行者・団体旅行者、30～50代（夫婦、ファミリー）

○選定の理由

近年「ふるさと納税日本一」・「世界遺産登録」などによって、本市知名度・関心度アップにより、来訪者数が上昇傾向にあるため。

○取組方針

関東・関西等都市圏での非日常のコンテンツとして人気のある、「自然」・「食」・「歴史文化」をテーマとしたコンテンツの提供を軸に、福岡都市圏及び佐世保市（ハウステンボス等）を経由しての流入を促し、本市の観光活性化につなげる。
そのために、九州観光推進機構や長崎県及び地元の関係機関と連携した誘致セールス活動や、WEBを活用した情報発信など積極的に展開を図る。さらに国内の富裕層に訴求できるコンテンツとして、平戸城の「城泊」の周知・誘客を図っていく。

○第1ターゲット層（海外）

東アジア（韓国・台湾・香港・中国）の個人旅行者・団体旅行者

○選定の理由

本市における外国人観光客の宿泊数は、平成26年から大きく増加しており、特に当該諸国からの観光客は、平成29年から平成30年にかけて159.4%増になるなど、これからも増加が期待されるため。

○取組方針

当該諸国の旅行会社・船会社・ランド社へ、本市を紹介する観光展・セミナー・商談会・受入れ事業等をとおして積極的なアプローチと緊密な連携を図るとともに、誘客に有効な施策・支援の実施も併せて行う。さらに、韓国語・中国語（繁体・簡体版）、英語のホームページのリニューアルを行うことで、それぞれの国の観光客の旅行目的に合った情報提供を行うことで、来訪意欲の増進を図る。また、ホームページにAIによる多言語FAQ対応機能を付加し利便性の向上を図ることで「旅前」情報提供に役立っている。外国人旅行者に対して利用しやすい観光案内所の機能強化のた

め、日本政府観光局が認定する「カテゴリー1観光案内所」の登録を行った。着地後は多言語による「Uni-Voice コード観光案内版」の設置で利便性と満足度の向上を図っている。

○第2ターゲット層（海外）

東南アジア（タイ・シンガポール・フィリピン・インドネシア・ベトナム）及び、欧米豪諸国（アメリカ、英国、フランス、スペイン、オーストラリア等）

○選定の理由

当該諸国からの観光客は年々増加傾向にあるが、まだまだ来訪機会の創出が可能であると考えられるため。また大航海時代の歴史遺産や自然など、ターゲットの興味をそそるコンテンツがあるから。

○取組方針

本市の主要コンテンツであるキリスト教の歴史遺産は、当地の一部地域も世界遺産登録され、東南アジアのカトリック信者や関係者から大きな注目を集めている。また欧米豪の富裕層には、日本文化に触れるコンテンツとして人気の「平戸城泊」の提供を2021年春から開始し、JNTOと連携したプロモーションを実施し、ターゲットとしている外国人観光客の誘客を図る。さらに海外の富裕層に訴求できるコンテンツとして、平戸城の「城泊」の周知・誘客を図っていく。

○第3ターゲット層（海外）

東南アジア（マレーシア・インド等その他アジア諸国）及び、欧米諸国（ドイツ、イタリア、ロシア、カナダ等その他欧米諸国）

○選定の理由

第1・第2ターゲットと比べても本市（及び長崎県）へのアクセスが不便なために、これまで当該諸国からの観光客が皆無で、本市としてもターゲットとしていなかったが、今後は外国人観光客数の底上げを図るため、当該諸国からの観光客誘致にも積極的に取り組んでいく。

○取組方針

まずは当該諸国の方々が何を求めて・期待して日本を来訪するのかを研究・把握し、その上で有効と考えられる本市のコンテンツを、JNTO等と連携して情報発信していく。

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	<h1 style="text-align: center;">六感ゆさぶる島</h1> <p style="text-align: center;">歴史・祈り・恵み・癒し を体感するまち 平戸</p>
②コンセプトの考え方	<p>平戸市は、九州本土の西北端、平戸瀬戸を隔てて南北に細長く横たわっている平戸島と、その周辺に点在する大小およそ 40 の島々から構成され、北は玄界灘、西は東シナ海を望み、歴史的には海外との交易の舞台として、古くは遣隋使の時代から東アジアを中心に、また 16 世紀の大航海時代には、ポルトガルやオランダなどの西欧諸国とのつながりを持つ国際都市として栄えた伝統がある城下港町である。</p> <p>自然景観も雄大で、複雑な海岸線や四季折々の山海など美しい環境から生み出される農林水産物や特産品は各方面からも高い評価を受けており、2014 年には「ふるさと納税」寄付額日本一の実績を残し、「本物の漁師体験」が国内外の観光客から高い人気を博すなど、自然資源を活かした新たな産業が生み出されている。</p> <p>また、250 年にも及んだキリスト教の禁教時代にも、人々が“祈り”信仰を継承し続けた貴重な歴史を物語るとして、平成 30 年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコに登録され、「平戸市の聖地と集落」として『春日集落と安満岳』と『中江ノ島』の二カ所が含まれている。さらには、平戸観光のシンボルである平戸城の櫓を活用した日本 100 名城初の宿泊施設「城泊」誕生し、国内外からの新たな観光コンテンツが誕生した。</p> <p>先人達が残してくれた格調高い伝統文化や、ダイナミックで心和ます自然景観、それに加えて心優しく実直で温もりある人々がかもしだす平戸市。歌人・種田山頭火が称した『日本の公園・ひらど』の実現に向けて、来訪者の方々に「歴史」「祈り」「恵み」「癒し」を五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）プラス“第六感”（心）で体感いただくことで、“平戸の虜”にさせることを目指す。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<p>部会、ワーキンググループ、HP、事業報告書の説明会</p> <p>① 観光地域づくり法人（DMO）のプラットフォームとして、当協会は会員のための総会を年1回、また理事会を年6回開催し、DMOの取組に関する方向性や戦略、事業報告等についての説明・検討・決定や情報共有を行うと共に、理事会との調整を図るため、各理事が参加する「総務部会」と「事業部会」を設置している。活動の成果、KPIの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、総会・理事会で説明を行う。</p> <p>【総会・理事会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会を6月に開催（正会員290名、賛助会員50名） ・理事会は年6回開催（理事21名、監事2名） <p>【執行部会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長、専務理事による毎月の会議 ・各部会や事務局からの提案・相談の協議の場 <p>【総務部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会の総務関係に関する提案・相談の協議の場で適宜に開催 <p>【事業部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会事業に関する提案・相談の協議の場で適宜に開催 <p>② 宿泊事業者・観光事業者・農林水産業者・NPO・町会組織代表や市民と、行政・当協会事務局職員で構成し、DMOの具体的な活動を提案し、実務の調整も行う協議の場として、4つのワーキンググループを設置。活動の成果、KPIの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、WGの関係者に説明を行う。</p> <p>（⇒各WGともに年4回以上適宜に開催、全体会議を年1回以上開催）</p> <p>【受入環境整備WG協議内容】 （2019年度：4回開催、2020年度：4回開催） 内外の観光客の満足度を高めるための受入れ環境整備について、多様な関係者が参加し協議を行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪客のためのワンストップ窓口構築とスタッフの人材育成 ・着地後の2次交通利用促進の条件整備 ・歴史的遺産の管理、自然環境の保全 ・ユニバーサルツーリズムへの研究 <p>【インバウンドWG協議内容】 （2019年度：4回開催、2020年度：4回開催） 訪日外国人が当地に着地後の満足度を高めるための環境整備について特化したWGで、関係者間で協議を行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回遊利便性向上のためのキャッシュレス化の推進 ・外国人観光客用プログラムの造成による滞在満足度向上策

	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の品質向上のための協議 <p>【プログラム商品造成WG協議内容】 (2019年度：4回開催、2020年度：4回開催) ターゲットとする顧客の誘客のためのプログラム・商品づくりを行うための協議を多様な関係者が参加し行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域独自のコンテンツのプログラム化 ・着地型商品の造成・整理・販促活動 ・地域ならではの「食」の提供の仕方 <p>【企画マーケティングWG協議内容】 (2019年度：1回開催、2020年度：2回開催) 各種調査事業から得たデータを分析し、マーケティングから得られた目標設定（KPI）について協議を行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析による情報の提供先別の加工 ・PDCAサイクル確立による事業方針の決定 ・設定KPIの再検討と再設定 <p>③ 平戸市・平戸観光協会・平戸商工会議所・平戸商工会や各団体の長が参画し、DMOの取組みに関する報告を行い、事業推進のための連携・承認機関としての役割として、「平戸市観光戦略協議会」を設置。活動の成果、KPIの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、協議会の関係者に説明を行う。（⇒年度初めと終わりに2回以上の開催）</p> <p>以上の取組により当協会を中心として、当協会の会員や市内の観光関連機関及び各事業者と連携を図りながら協議を重ね、効果的な手法等により各事業を推進している。</p>
<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ホームページを従来の単なる情報発信ツールとしてではなく、閲覧者の動向を詳細に分析し、観光客を持続的に呼び込むためのデジタルマーケティングを行う。このことで、平戸への興味を高め（旅前）、来訪を実現し（旅中）、再来訪や口コミを促す（旅後）という一連の顧客行動（カスタマージャーニー）を円滑に推進するための仕掛け作りとのデータ収集を行い、平戸版DMOでの戦略策定、KPI設定の参考資料とする。 ◆着地型観光商品の周知やニーズの掘り起こしを行いながら、来訪客からの要望に応じた手配旅行の受注もワンストップ窓口で対応するなど、滞在中の利便性向上や受け入れ態勢の強化を図る。 ◆食の魅力向上のための調査を行い、「見せ方」や「食べさせ方」を検討することで、新たな「食」を活用したプログラムの開発を行い、最適化を図ることで、顧客満足度を高め再来訪につなげていく。 ◆長崎県観光連盟の「宿泊施設グレードアップネットワーク」など関係機関との連携を強化しながら、市内宿泊施設のサービスの質の向

	上につながる人材育成を強化していく。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<p>(1) マスメディア対策 本市の観光素材を活用したPR活動や、取材受入支援等によるマスメディア対策を行いつつ、広報・イベント等の情報を様々な発信ツールを組み合わせたメディアミックスにより効果的なプロモーションを行っている。また観光案内所では、旅行者に対してワンストップ窓口としての機能提供で、訪れたい観光地域づくりを推進する。</p> <p>[A] メディア取材支援事業 全国展開のメディアや全国誌を中心に、シナハン・ロケハンや取材活動の支援を行うことで、平戸の観光素材の露出を高め、全国からの誘客を促進する。</p> <p>[B] 広報・PR事業 地域に根付いた季節のイベントや、平戸城をはじめとした観光施設に加え、これまで観光素材を活用して作成した旅行商品やプログラムなど、平戸ならではの魅力的なコンテンツを、九州域内を中心に様々なメディア媒体を活用して広告展開を行う。</p> <p>[C] 福岡都市圏・長崎市内でのプロモーション 来訪客の多い福岡都市圏や長崎市内などで現地イベントとタイアップし、ラジオ・TV等の電波媒体を積極的に活用して、平戸の観光素材の情報発信やPRを行う。</p> <p>[D] プレスリリース配信 プレスリリース配信会社を活用して、全国へタイムリーな観光情報を発信しパブリシティを獲得する。また広報PRの為に、素材制作も合わせて行う。</p> <p>(2) インターネット活用 国内外の旅行者の多様化したニーズに対応した観光情報を発信するため、ホームページやSNS等を活用し、回遊性や利便性に配慮した最新の観光情報の発信と、満足度を高めるための楽しみ方の提案を行うことで誘客を図る。また当地のコンテンツを紹介した動画の拡充に努め、来訪意欲の増進に働きかける。また外国人の受入環境整備としては、市内主要観光地をQRコード化し、多言語化に対応した外国人誘客に取り組む。</p> <p>(3) インバウンド誘致プロモーション 訪日観光客誘致を図るため、日本政府観光局（JNTO）、九州観光推進機構、長崎県観光連盟、平戸市観光課と連携し、効果的なセールス・プロモーション活動を展開する。また、国内で開催されるインバウンド商談会に積極的に参加して、本市観光素材の周知を図る。</p> <p>(4) まちかど観光案内所の設置 市内外の75箇所に点在する『まちかど観光案内所』では、道案内や簡単な観光案内のほか、観光パンフレットの提供などを行っている。これは市民の自発的なボランティアによる活動として観光案内所を設置し、受入体制の充実を図っている。</p>

(5) SNS を活用した観光発信

市内のまちづくり協議会や市民と一体となって、SNS の情報発信を行う。また、スマートフォンアプリを活用した双方向性での観光情報の共有を行う。

(6) 外部事業者との連携によるプロモーション

本市の観光シンボルである平戸城を活用して誘客を図るため、国・県と連携し、地方創生推進交付金等を活用しながら、日本初のお城の宿泊施設化(平戸城宿泊施設事業)に取組み、2021 年春の開業を目指している。城泊は日本初の取組みであり、平戸城「城泊」JV (Kessha(株)、(株)アトリエ・天工人、日本航空(株))が運営する。海外から富裕層の誘客が期待できるプロジェクトであることから、今後は国(観光庁)やJNTO と連携をしながら、日本有数のキラコンテンツとしてプロモーションを展開する。

平戸は日本最古の南蛮貿易の拠点となった城下町。平戸城は日本 100 名城にも選定されていて、平戸城の大規模改修に合わせ、海に面した絶好のロケーションである懐柔櫓の宿泊施設の運用を行う。城泊施設に改修する懐柔櫓は、鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積は 126.84 平方メートル。奄美群島で伝統的な建築と文化をテーマに宿泊施設の設計・運営を多数手掛けている天工人が、欧米の富裕層のニーズを満たす

「格調高い施設設計・内装デザイン」を施している。加えて、集客から運営まで体験型宿泊のパイオニアである百戦錬磨の企画をベースに、JAL の持つ路線ネットワークやプロモーションチャネルなどによって、事業シナジーを最大限発揮し、海外に向けた「城泊」ブランドの構築を図る。城泊は、ヨーロッパなどでは貴族の城を宿泊施設として利活用しているケースが多く、富裕層が貸し切って滞在観光をすることも珍しくない。日本の城を宿泊施設として平戸市の観光活性化の起爆剤になることを構想している。



※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須KPI

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標	11,000 ()	8,000 ()	8,900 ()	10,192 ()	11,111 ()	12,000 ()
	実績	6,792 ()	7,481 ()	9,444 ()			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	475 (19.4)	180 (1)	210 (1)	231 (1.4)	242 (2)	270 (5)
	実績	170.2 (0.9)	185.3 (0.01)	270.0 ()			
●来訪者満足度 (%)	目標	68.0 ()	68.5 ()	69.0 ()	69.5 ()	70.0 ()	70.5 ()
	実績	70.8 ()	74.0 ()	88.2 ()			
●リピーター率 (%)	目標	64.0 ()	65.0 ()	66.0 ()	67.0 ()	67.5 ()	70.0 ()
	実績	62.7 ()	65.2 ()	83.3 ()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

現在実施している観光統計・平戸大橋交通量調査・宿泊実績調査・観光アンケート調査・満足度調査のほか、平戸市総合計画・国内外の観光動向や宿泊施設等の受入環境整備の状況等をもとに、目標数値について、平戸市・観光協会・長崎国際大学で検討を行った。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

日帰り客については2019年度まで、佐世保港への大型クルーズ客船の寄港回数が増加傾向にあったことから増加傾向にあったが、2020年度以降はコロナ感染症がある程度収束するまでは、消費額の減少が予想される。また宿泊客についても同様で、2020年度に大型ホテルの増築が完成すること等から一時的な増加を見込んでいたが、今のところ現状維持と思われる。インバウンドについては、日本初の平戸城の宿泊施設化を観光庁と連携しながら進めていることから、今後の状況を見据えながら、国内外観光客の増加による消費額の増加も見込んだ事業展開を図っていく予定である。

※2018年度の旅行消費額を基準値とし、観光入込客数及び宿泊者数の推移を加味し目標を設定。

●延べ宿泊者数

2020年度は、東京オリンピック(2021年へ延期)の開催が見込まれ、宿泊施設の増築も完了することから、国内外の宿泊客の増加が予想されていたが、コロナ感染症拡大による旅行需要の萎縮で、目標数値の達成が難しくなったことから、下方修正を行った。また、外国人宿泊客も大きく減少してお

り、見直しを行った。コロナ終息後、一時的に延べ宿泊客は増加傾向となると思われるが、旅館・民宿等の施設の老朽化が進んでおり、新型コロナウイルス感染症以前の延べ宿泊客数からは、減少することを見込んでいる。今後、アフターコロナを見据えて、宿泊施設の対応と利用促進のための方策を検討し、新たな需要の開拓を推進する予定である。

なお、延べ宿泊客数のカウント方法を市が見直すこととなっていることから、今後、目標数値について、再度見直すこととしている。

●来訪者満足度

2018年度の来訪者満足度を基準値とし、「大変満足」の毎年0.5%アップを目標に設定している。現在、受入環境整備事業の推進や宿泊施設や飲食店でのおもてなし対応の改善など、協会が中心となって展開している。またハード整備面での満足度向上のためには、行政当局と協議を重ねながら連携強化を図り、満足度向上に貢献する。

●リピーター率

2018年度のリピーターを基準値とし、毎年1%アップを目標に設定。現在の調査事業の結果として、今後の再来訪の意向についての回答は高い数値の物ではない。あらゆる面での満足の向上を押し上げる環境整備を推進しながら、まずはソフト面での効果的な改善策を検討し実施していく。

(2) その他の目標

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●観光客数 (千人)	目標	1,781 ()	1,871 ()	1,576 ()	1,802 ()	1,971 ()	1,990 ()
	実績	1,387 ()	1,476 ()	1,605 ()			
●日帰り客数 (千人)	目標	1,378 ()	1,516 ()	1,366 ()	1,571 ()	1,728 ()	()
	実績	1,217 ()	1,291 ()	1,335 ()			
●主要観光施設 の入館者数 (千人)	目標	200 ()	287 ()	200 ()	240 ()	288 ()	()
	実績	108 ()	147 ()	171 ()			
●当協会ホーム ページのアク セス数 (千人)	目標	760 ()	770 ()	780 ()	790 ()	800 ()	()
	実績	682 ()	450 ()	746 ()			
●住民満足度 (%)	目標	68.0 ()	69.0 ()	70.0 ()	71.0 ()	71.0 ()	()
	実績			47.5 ()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

当協会の「観光客満足度調査」及び「平戸市観光統計」「平戸大橋交通量調査」「宿泊客数調査」「観光アンケート調査」のほか、宿泊施設・観光施設の状況及び国内外の動向等を総合的に検討し、目標数値の設定について、平戸市・観光協会・長崎国際大学で検討を行った。

【設定にあたっての考え方】

●観光客数

2020年は平戸城の改修により1年間休館することから、観光客が減少することが予想されるが、平戸城宿泊施設が7月にオープンすることから3%の増加とし、2021年は、大型宿泊施設の増築等により5%の増加を想定して設定している。なお、2022年以降は、旅館・民宿の衰退が懸念されることから増減なしで設定している。

●日帰り客数

平戸大橋交通量調査の増加率をもとに、日帰り客数を設定している。特に福岡都市圏からは、西九州道（高速道路）の部分開通でアクセス時間の短縮が図られている。このことから、車を使った個人旅行客の伸びが考えられ、さらに2021年は、大型宿泊施設の増築完了等もあり10%増加に設定している。2022年以降は、毎年1%増加で設定。

●主要観光施設入館者数

平戸城の大規模改修工事（2018～2020年度）に伴い、2019年10月から2021年3月まで、平戸城が休館することから、2020年までは減少することで設定している。平戸城リニューアル後の2022年以降は大幅な増加で設定している。

●ホームページのアクセス数

2018年度の日本語版ホームページリニューアルに伴い、2018年度から2019年度にかけて、ページビューは、前年比約21.8%アップしていることから、2020年度以降は10%アップを目標に設定。

●住民満足度

来訪者の満足度を高めるためには、当地住民のおもてなしが重要な要素になってくる。少子化に伴い、地域住民の人口も減少傾向にある中で、将来にわたって来訪客をどの様に受け入れていくか、またその機運をどのようにしたら高められるかが課題となっている。地域住民に対し当地での暮らしも満足度を向上させることで、地域経済の活性化に大きな寄与をしている観光産業の重要性などを理解してもらう為の、講演会やシンポジウムを開催していく。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。
 ※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（1）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2020（R2） 年度	187,222,168（円）	【会費収入】 8,327,300円 【事業収入】 37,568,036円 【受託事業収入】 95,613,479円 【補助金等収入】 38,697,480円 【負担金収入】 1,769,772円 【雑収入】 2,976,101円 【他会計からの繰入金収入】 2,270,000円
2021（R3） 年度	323,648,617（円）	【会費収入】 8,151,800円 【事業収入】 34,176,303円 【受託事業収入】 185,179,568円 【補助金等収入】 35,512,958円 【負担金収入】 1,791,576円 【雑収入】 55,889,976円 【他会計からの繰入金収入】 2,946,436円
2022（R4） 年度	387,586,752（円）	【会費収入】 8,130,700円 【事業収入】 37,044,550円 【受託事業収入】 205,427,601円 【補助金等収入】 65,109,276円 【負担金収入】 1,983,021円 【雑収入】 69,041,604円 【他会計からの繰入金収入】 850,000円
2023（R5） 年度	238,514,000（円）	【会費収入】 8,152,000円 【事業収入】 136,344,000円 【受託事業収入】 30,579,000円 【補助金等収入】 55,257,000円 【負担金収入】 1,770,000円 【雑収入】 5,412,000円 【他会計からの繰入金収入】 1,000,000円
2024（R6） 年度	162,900,000（円）	【会費収入】 8,500,000円 【事業収入】 100,000,000円 【受託事業収入】 11,400,000円 【補助金等収入】 40,000,000円 【雑収入】 3,000,000円
2025（R7） 年度	162,900,000（円）	【会費収入】 8,500,000円 【事業収入】 100,000,000円 【受託事業収入】 11,400,000円 【補助金等収入】 40,000,000円 【雑収入】 3,000,000円

(2) 支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2020（R2） 年度	189,119,801（円）	【事業費支出】 34,733,582 円 【受託事業支出】 97,008,136 円 【管理費支出】 13,379,645 円 【その他支出】 2,270,000 円 【平戸版 DMO 振興事業支出】 39,728,438 円
2021（R3） 年度	324,209,215（円）	【事業費支出】 30,983,199 円 【受託事業支出】 240,562,749 円 【管理費支出】 9,322,530 円 【その他支出】 2,946,436 円 【誘致宣伝事業支出】 454,235 円 【高付加価値化事業支出】 17,186,159 円 【平戸版 DMO 振興事業支出】 22,753,907 円
2022（R4） 年度	383,124,254（円）	【事業費支出】 34,343,558 円 【受託事業支出】 273,494,306 円 【管理費支出】 7,549,110 円 【その他支出】 850,000 円 【平戸版 DMO 振興事業支出】 66,887,280 円
2023（R5） 年度	238,514,000（円）	【事業費支出】 43,125,000 円 【受託事業支出】 124,060,000 円 【管理費支出】 7,489,000 円 【その他支出】 1,000,000 円 【平戸版 DMO 振興事業支出】 62,840,000 円
2024（R6） 年度	162,900,000（円）	【事業費支出】 139,000,000 円 【受託事業支出】 11,400,000 円 【管理費支出】 10,000,000 円 【その他支出】 2,500,000 円
2025（R7） 年度	162,900,000（円）	【事業費支出】 139,000,000 円 【受託事業支出】 11,400,000 円 【管理費支出】 10,000,000 円 【その他支出】 2,500,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

◆旅行事業

観光客の利便性向上と滞在時間確保のため、着地型旅行商品の企画・造成・販売を行う他、平戸のワンストップ窓口として当地や隣接地の様々な観光プログラムの手配・販売も行うことで収益の向上を図る。特に今後、世界遺産の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を踏まえた商品や、自然や食、異文化などを利用したアドベンチャーリズム等の新たな観光コンテンツの創出を図り商品の販売強化を行っていく。

◆物販事業

平戸らしい素材を活用した協会オリジナルの商品を開発し販売を行う。また、協会会員を中心とした関係事業者とも連携して、受託商品の販売拡充を図り収益の向上に努める。

◆会員事業

ここ数年来、自主財源の拡大を図るため、正・賛助会員の年会費や口数を見直すことを検討してきたが、理事や関係団体を中心に企業規模に応じた口数増加を依頼するなど改定を推進してきた。しかし、毎年「廃業」「高齢化」「事業の縮小」「経営方針の変更」等の理由で退会が増えつつある現状を踏まえ、新規の会員獲得のための会員特典等メリットの拡充を図ることで、会員増強を図っていく。

◆指定管理事業

平戸市内の観光施設等の指定管理業者になることで、安定的な収入を確保していく。また地域経済への貢献にも努めていく。

◆補助金・委託金

国や長崎県の補助事業を活用し新たなコンテンツ構築による商品造成を行い、手数料収入の確保をしていく。また平戸市においては、DMO 構築により観光行政の一元化に伴う観光振興事務の見直しにて、新たな財源確保を目指していく。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

平戸市は、一般社団法人平戸観光協会を平戸市における地域DMOとして登録したいので、一般社団法人平戸観光協会とともに申請します。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO（県単位以外）や地域DMOと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	里村 亮
担当部署名（役職）	事務局（事務局長）
郵便番号	859-5114
所在地	長崎県平戸市崎方町 776-6
電話番号（直通）	0950-23-8600
F A X 番号	0950-23-8601
E - m a i l	satomura@hirado-net.com

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	平戸市
担当者氏名	後藤 彰文
担当部署名（役職）	文化観光商工部観光課（班長）
郵便番号	859-5192
所在地	長崎県平戸市岩の上町 1508-3
電話番号（直通）	0950-22-9140
F A X 番号	0950-23-3399
E - m a i l	kanko@city.hirado.lg.jp

都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
F A X 番号	
E - m a i l	

記入日: 令和5年 7月 18日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】 長崎県平戸市
 【設立時期】 平成25年4月1日
 【設立経緯】 ①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
 【代表者】 藤澤 美好
 【マーケティング責任者(CMO)】 村上 健之
 【財務責任者(CFO)】 藤田 法恵
 【職員数】 11人(常勤7人(正職員5人・出向等2人)、非常勤4人)
 【主な収入】 会費、施設管理費、その他負担金 80万円(令和4年度決算)
 収益事業(売店・旅行業) 37万円(令和4年度決算)
 補助金・委託事業 271万円(令和4年度決算)
 【総支出】 事業費 376万円、一般管理費 7万円(令和4年度決算)
 【連携する主な事業者】

【受入環境整備】
 ◆平戸商工会議所 ◆平戸市商工会 ◆平戸旅館組合 ◆平戸市料飲業組合 ◆(公財)平戸市振興公社 ◆平戸市文化協会 ◆(公財)松浦史料博物館 ◆NPO法人平戸観光ウェルカムガイド
 ◆平戸市郷土文化館 ◆平戸市観光協会 ◆平戸市観光協会
 【城泊を活用した城泊JUV連携事業】
 ◆平戸城「城泊」JUV(Kessha)棟、陣アトリエ・天工人、日本航空棟) ◆榊狼煙
 【特産品の流通・販促・体験プログラムの開発】
 ◆平戸市物産振興協会 ◆長崎県菓子工業組合 平戸支部 ◆平戸瀬戸市場協同組合
 ◆農事組合法人ひらど新鮮市場 ◆ながさき西海農業協同組合 ◆平戸市森林組合
 ◆平戸市漁業協同組合 ◆中野漁業協同組合 ◆志々伎漁業協同組合 ◆中平戸体験振興協議会
 ◆志々伎体験振興委員会 ◆田平体験振興会 ◆生月島体験観光協議会 ◆大島村体験型観光協議会 他
 【アース改善・次交通】
 ◆松浦鉄道線 ◆西肥自動車線 ◆生月自動車線 ◆大川陸運線 ◆マンボウタクシー ◆中部タクシー(南)
 ◆シルバータクシー ◆生月自動車(南) ◆ハッピーレンタカー ◆竹山運輸(南) ◆津吉商船(南) さつ観光光
 【情報発信】
 ◆榊テレビ長崎 ◆長崎放送(株) ◆長崎文化放送(株) ◆NHK長崎放送局 ◆西日本新聞社 ◆長崎新聞社 ◆各雑誌社 ◆各ラジオ局 他
 【マーケティング調査等】
 ◆長崎国際大学 国際観光研究所 ◆榊狼煙 ◆日本航空(株) 他
 【広域連携】
 ◆(一社)九州観光推進機構 ◆(一社)長崎県観光連盟 ◆(一社)まつら観光物産協会 他

KPI(実績・目標)

※()内は外国人に関するもの。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行消費額 (百万円)	目標	11,000 ()	8,000 ()	8,900 ()	10,192 ()	11,111 ()	12,000 ()
	実績	6,732 ()	7,481 ()	9,444 ()	—	—	—
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	475 (23)	180 (1)	210 (1)	231 (1.4)	242 (2)	270 ()
	実績	170 (0.8)	185 (0.01)	270 (0.6)	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	68.0 ()	68.5 ()	69 ()	69.5 ()	70.0 ()	70.5 ()
	実績	70.8 ()	74.0 ()	88.2 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	64.0 ()	65.0 ()	66.0 ()	67.0 ()	67.5 ()	70.0 ()
	実績	62.7 ()	65.2 ()	83.3 ()	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

(国内第1ターゲット)福岡都市圏の個人旅行者等
 (国内第2ターゲット)長崎県及び九州域内の個人旅行者等
 (国内第3ターゲット)関東・関西等都市圏の個人旅行者等
 (海外第1ターゲット)東アジア(韓・中華圏)の個人旅行者・団体旅行者
 (海外第2ターゲット)東南アジア(フィリピン等)及び欧米豪諸国(アメリカ等)
 (海外第3ターゲット)東南アジア(マレーシア等)及び欧米諸国(ドイツ)

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

●国内向けには、満足度調査分析及び再来訪意向分析結果をもとにターゲット層に強力で訴求できるコンテンツの開発・磨き上げを図る。
 ●海外向けには、当該諸国の旅行会社・船会社・ランド社へ、本市を紹介する観光展・セミナー・商談会等をおして積極的なアプローチを図る。また韓国語・中国語(繁体・簡体版)、英語のホームページと情報発信を強化し、観光客の目的に合ったコンテンツの構築を図る。

【観光地域づくりのコンセプト】

六感ゆさぶる島…歴史・祈り・恵み・癒しを体感するまち平戸

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

・旅行商品化事業
 クルージング、サイクリング事業
 ・滞在型プログラム事業
 ガストロノミー商品の企画開発
 アドベンチャーーツーリズム商品の企画開発等

【受入環境整備】

・国際交流事業
 ・国際観光誘客事業
 PR動画制作、招聘事業の実施
 ・国内観光誘致事業
 旅行商談会・説明会の参加及び誘致活動
 ・平戸版DMO構築事業

【情報発信・プロモーション】

・情報発信事業(メディア展開)
 ・情報発信事業(インターネット展開)
 多言語HPの充実、SNSでの情報発信
 OTAの活用

【その他】

・平戸城を活用して誘客を図るため、国・県と連携し、日本初のお城の宿泊施設化の取組み、2021年4月に開業。常設の城泊は100名城日本初の取組みであり、海外から富裕層の誘客が期待できるプロジェクト。今後はJNTO、九州観光推進機構と連携し、プロモーションを展開。

